



Cisco Unified Presence Release 8.6 インストレーションガイド

2011 年 8 月 10 日

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 (www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unified Presence Release 8.6 インストールガイド
© 2011 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2011, シスコシステムズ合同会社 .
All rights reserved.



CONTENTS

CHAPTER 1

はじめに	1-1
変更履歴	1-1
このマニュアルについて	1-1
対象読者	1-2
関連資料	1-2
表記法	1-3
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	1-3
マニュアルの構成	1-4

CHAPTER 2

このリリースの新機能	2-1
LCS/OCS によるパーティション化されたドメイン内フェデレーション	2-1
クロス クラスタ ログイン	2-1
アップグレード API	2-2

CHAPTER 3

製品の説明	3-1
Cisco Unified Presence の概要	3-1
パブリッシャおよびサブスクライバ ノード	3-1
Cisco Unified Communications Manager との連携	3-2
Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードのシステム時刻	3-2
Cisco Unified Presence のライセンス要件	3-2
ライセンス モード	3-2
ユーザおよびサーバ ライセンスの要件	3-4
Cisco Unified Presence ユーザ機能ライセンス	3-5
Cisco Unified Presence サーバ ライセンス	3-5
Cisco Unified Presence ソフトウェア バージョン ライセンス	3-5

CHAPTER 4

はじめる前に	4-1
最初にお読みください	4-1
DNS 要件	4-1
インストール時間の要件	4-1
システム要件	4-2
必要なパスワード	4-2
管理者アカウント ユーザ名およびパスワード	4-2

アプリケーション ユーザ名およびパスワード	4-2
セキュリティ パスワード	4-2
必要なインストール情報	4-3
ハードウェアおよびソフトウェアの要件	4-10
ソフトウェアの制限事項	4-10
インストール前のチェックリスト	4-10
クラスタ トポロジ	4-11
Cisco Unified Presence の無人インストール	4-11
応答ファイルの生成	4-12
FAT32 ファイル システムへの USB キーの再フォーマット	4-13

CHAPTER 5

インストール	5-1
インストールの概要	5-1
インストールと設定のタスクフロー	5-1
パブリッシャ ノードの無人インストールと設定	5-2
サブスクライバ ノードの無人インストールと設定	5-3
パブリッシャ ノードの手動インストールと設定	5-4
サブスクライバ ノードの手動インストールと設定	5-5
既存のクラスタへの新しいノードの追加	5-6
インストール ウィザードの操作	5-7
Cisco Unified Presence のインストールと設定	5-7
メディアのチェック	5-8
応答ファイルを使用した Cisco Unified Presence のインストールと設定	5-8
基本インストールの開始	5-9
基本インストールの設定	5-10
パブリッシャ ノードの設定	5-12
インストール後の導入ウィザードの実行	5-12
サブスクライバ ノードの設定	5-14
プレインストールされた Cisco Unified Presence Server の設定	5-16
マルチノードの新規インストールの実行	5-16

CHAPTER 6

インストール後のタスク	6-1
インストール後のチェックリスト	6-1
ソフトウェアの更新およびファームウェアのアップデートの確認	6-2
ファームウェア	6-2
ソフトウェア	6-3
プレゼンス ゲートウェイとしての Cisco Unified Communications Manager の設定	6-3
Cisco Unified Communications Manager での SIP トランクの設定	6-3

サーバへのユーザの割り当て	6-4
サービスのアクティブ化	6-4
Cisco Unified Presence ノード名の解決可能な値への変更	6-4
デフォルトのプロキシ ドメイン名の変更	6-5
Cisco Unified Presence ライセンス ファイルの取得とアップロード	6-5
サーバおよびユーザ ライセンス ファイルの取得	6-6
Cisco Unified Communications Manager へのユーザ ライセンスのアップロード	6-7
Cisco Unified Communications Manager でのライセンス機能の割り当て	6-7
Cisco Unified Presence へのサーバ ライセンス ファイルのアップロード	6-8
Cisco Unified Presence のライセンス情報の表示	6-9

CHAPTER 7**トラブルシューティング 7-1**

Cisco Unified Presence パブリッシャのハードウェア障害	7-1
--	-----

CHAPTER 8**参照先 8-1**

RAID および BIOS 設定	8-1
------------------	-----



CHAPTER 1

はじめに

- 「変更履歴」 (P.1-1)
- 「このマニュアルについて」 (P.1-1)
- 「対象読者」 (P.1-2)
- 「関連資料」 (P.1-2)
- 「表記法」 (P.1-3)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」 (P.1-3)
- 「マニュアルの構成」 (P.1-4)

変更履歴

表 1-1 変更履歴

リビジョン	場所
マニュアル再編成後の最初のリビジョン	すべての章

このマニュアルについて

『Cisco Unified Presence Release 8.6 インストールガイド』では、Cisco Unified Presence Release 8.6 を物理サーバにインストールする方法について説明します。

Cisco Unified Presence を VMware サーバにインストールする方法については、次の URL にある Virtualized Environment docwiki で「Unified Communications」を参照してください。
http://docwiki.cisco.com/wiki/Unified_Communications_in_a_Virtualized_Environment



(注)

この docwiki にある VMware 関連のすべての情報は Cisco Unified Presence に適用されますが、アイデンティティ テンプレートを開発する場合は、アイデンティティ テンプレートの導入後に Cisco Unified Presence インストール後ウィザードを実行し、さまざまな Cisco Unified Communications Manager の値を確認する必要があります。詳細については、次の URL にある『Cisco Unified Communications Manager on Virtualized Servers』マニュアルを参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicew/ps556/prod_installation_guides_list.html

対象読者

このインストール ガイドは、Cisco Unified Presence Release 8.6 のインストールを行う管理者を対象としています。

関連資料

インストールのプロセスと前提条件についてよく理解するため、このマニュアルの内容すべてに目を通すことを強く推奨します。さらなる詳細については、次の Cisco Unified Presence に関するガイドを参照してください。

- *Cisco Unified Presence* の管理ページのオンライン ヘルプ
Cisco Unified Presence の設定、保守、および管理方法を順を追って説明します。
- 『*Hardware and Software Compatibility Information for Cisco Unified Presence*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_device_support_tables_list.html
現在使用している Cisco Unified Presence と互換性のあるハードウェア サーバおよびソフトウェアについて説明しています。
- 『*Cisco Unified Operating System Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_maintenance_guides_list.html
オペレーティング システムやコマンドライン インターフェイスを介して利用できるユーティリティについて説明しています。
- 『*Upgrade Guide for Cisco Unified Presence*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_installation_guides_list.html
ソフトウェアのアップグレード情報、およびソフトウェア アップグレードの実行方法について説明しています。
- 『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_installation_and_configuration_guides_list.html
Cisco Unified Presence および Cisco Unified Communications Manager の設定手順の概要について説明しています。また、Cisco Unified Presence と Microsoft Live Communications Server、Microsoft Active Directory、および Microsoft Office Communicator との統合に関する情報を記載しています。ハイ アベイラビリティに関するシスコの推奨事項も記載されています。
- 『*Real-Time Monitoring Tool Administration Guide for Cisco Unified Presence*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_maintenance_guides_list.html
Cisco Unified Presence のサービスアビリティについて説明しています。アラーム設定、トレース設定、およびその他のレポートについても順を追って説明しています。
- 『*Disaster Recovery System Administration Guide*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_maintenance_guides_list.html
バックアップの設定方法、Cisco Unified Presence データのバックアップ方法、およびデータの復元方法について説明しています。
- 『*Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Presence*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_maintenance_guides_list.html
Cisco Unified Presence サーバの IP アドレスまたはホスト名の変更手順について説明しています。この IP アドレスの変更が必要になる理由として、サーバを別のクラスタに移動する場合や IP アドレスが重複している問題を解決する場合など、さまざまな状況が考えられます。

- 『*Integration Guide for Configuring Partitioned Intradomain Federation for Cisco Unified Presence Release 8.6 and Microsoft LCS/OCS*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_installation_and_configuration_guides_list.html
Cisco Unified Presence と Microsoft LCS/OCS の間に、パーティション化されたドメイン内フェデレーションを設定する方法について説明しています。
- Cisco Unified Communications Manager の詳細については、次の URL を参照してください。
http://cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd_products_support_series_home.html?q=
- Cisco Unified Presence を VMware サーバにインストールする方法については、次の URL にある Virtualized Environment docwiki で「Unified Communications」を参照してください。
http://docwiki.cisco.com/wiki/Unified_Communications_in_a_Virtualized_Environment

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記書体	使用場所
太字フォント	コマンド、ユーザ入力
イタリック体	マニュアル名、強調
Courier フォント	コマンド、コード例



(注) 注では、役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意 注意の内容をよくお読みください。注意では、Cisco Unified Presence の導入に悪影響のある行為を警告しています。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。現在は、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

マニュアルの構成

このガイドは、次のセクションから構成されています。

- はじめに：マニュアルの変更履歴、対象読者、表記規則、および関連マニュアルリストなど、このマニュアルに関する説明が記載されています。
- 本リリースの新機能：Cisco Unified Presence Release 8.6 で導入された新機能についての簡単な説明が記載されています。
- 製品の説明：Cisco Unified Presence 製品の概要、パブリッシャおよびサブスクライバ ノードの説明、および Cisco Unified Presence と Cisco Unified Communications Manager の相互動作について記載されています。Cisco Unified Presence のライセンス モードについての説明、およびユーザーとサーバのライセンス要件のリストも記載されています。
- はじめる前に：システム要件、ハードウェアおよびソフトウェア要件、インストール前タスクについて記載されています。クラスタ トポロジを正しくセットアップすることの重要性、および Cisco Unified Presence を無人インストールする方法についても記載されています。
- インストール：インストールのフローチャート、および Cisco Unified Presence をインストールするための全手順が記載されています。
- インストール後のタスク：Cisco Unified Presence のインストール後に実行する必要があるタスクが説明されています。
- トラブルシューティング：パフォーマンス上の問題、および考えられる原因と解決策についての説明が記載されています。
- 参照先：インストール中に設定される BIOS 設定および RAID 設定について記載されています。



CHAPTER 2

このリリースの新機能

- 「LCS/OCS によるパーティション化されたドメイン内フェデレーション」 (P.1)
- 「クロス クラスタ ログイン」 (P.1)
- 「アップグレード API」 (P.2)

LCS/OCS によるパーティション化されたドメイン内フェデレーション

パーティション化されたドメイン内フェデレーションでは、同一企業ドメイン内の Cisco Unified Presence クライアントユーザと Microsoft Office Communicator ユーザが、プレゼンス アベイラビリティと Instant Messaging (IM; インスタント メッセージング) を交換できます。

この統合では、Cisco Unified Presence で設定され、Cisco Unified Presence がサポートするクライアントをデスクトップクライアントとして使用するか、OCS または LCS で有効化され、Microsoft Office Communicator をデスクトップクライアントとして使用する、企業ドメイン内のユーザがサポートされます。パーティション化されたドメイン内フェデレーションの詳細については、『*Integration Guide for Configuring Partitioned Intradomain Federation for Cisco Unified Presence Release 8.6 and Microsoft LCS/OCS*』を参照してください。

クロス クラスタ ログイン

Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Personal Communicator クライアント アプリケーションを、ユーザが割り当てられた Cisco Unified Presence ノード (ホーム ノード) にリダイレクトする機能をサポートしています。このリダイレクト機能は、クラスタ内およびクラスタ間導入でサポートされます。ユーザがホーム ノードへのサインインに成功すると、Cisco Unified Personal Communicator がサーバ名をキャッシュします。その結果、ユーザが再割り当てされない限り、リダイレクトは 1 回のみ行われます。詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

アップグレード API

アップグレード API では、既存のアップグレードフレームワークと統合された Web ベースのインターフェイスが提供されます。この機能を使用すると、大規模な Cisco Unified Presence 導入のシステムアップグレードが容易になり、単一の管理クライアントからアップグレードの開始と監視を行えます。アップグレード API を使用するアプリケーションを適切に開発するには、アップグレードの動作方法とアプリケーションをアップグレードプロセスに適合させる方法を理解する必要があります。アップグレード API の詳細については、Cisco Developer Network にある Cisco Unified Presence API のマニュアルを参照してください。



CHAPTER 3

製品の説明

- 「Cisco Unified Presence の概要」 (P.3-1)
- 「パブリッシャおよびサブスクリバノード」 (P.3-1)
- 「Cisco Unified Communications Manager との連携」 (P.3-2)
- 「Cisco Unified Presence のライセンス要件」 (P.3-2)

Cisco Unified Presence の概要

Cisco Unified Presence は、ネイティブな標準ベースのデュアルプロトコル企業 Instant Messaging (IM; インスタント メッセージング)、および Cisco Unified Communications の一部としてのネットワークベースのプレゼンスを提供します。このセキュアで、スケーラブルで、管理の容易なソリューションでは、ユーザに企業内外への機能豊富な通信機能が提供されます。

Cisco Unified Presence は、シスコおよびさまざまなサードパーティ製の互換デスクトップおよびモバイルプレゼンス、IM クライアント、およびアプリケーションと緊密に統合されています。このようなクライアントは、インスタントメッセージング、プレゼンス、クリック ツー コール、電話制御、音声、ビデオ、ビジュアル ボイスメール、Web コラボレーションなど多数の機能を実行できます。

Cisco Unified Presence は、お客様およびパートナーにリッチなオープンインターフェイスによる柔軟性を提供し、各種のビジネス アプリケーション用の IM およびシスコのリッチなネットワークベースプレゼンスが可能になります。

パブリッシャおよびサブスクリバノード

各 Cisco Unified Presence クラスタに最初にインストールするノードはパブリッシャ ノードと呼ばれます。クラスタ内のそれ以降のすべてのノードはサブスクリバノードと呼ばれます。サブスクリバノードは、それぞれパブリッシャ ノードと関連付けられている必要があります。サブスクリバノードに Cisco Unified Presence ソフトウェアをインストールするには、その前にパブリッシャ ノードのシステム トポロジ内ですべてのサブスクリバノードを設定する必要があります。

複数ノード環境では、システム トポロジを設定し、新しいノードをインストールする順序が非常に重要です。インストールと設定の順序は次のようになります。

1. パブリッシャ ノードをインストールして設定する。
2. パブリッシャ ノードで、クラスタ内にサブクラスタとサブスクリバノードを作成する。
3. クラスタ内にそれぞれのサブスクリバノードをインストールして設定する。
4. パブリッシャ ノードで、必要に応じてサブクラスタ構成にサブスクリバノードを割り当てる。

システム トポロジの設定方法の詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager との連携

Cisco Unified Presence は Cisco Unified Communications Manager と緊密に統合されています。Cisco Unified Presence のインストール時は、次の Cisco Unified Communications Manager 情報を指定する必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのホスト名
- Cisco Unified Communications Manager の IP アドレス (Domain Name Service (DNS; ドメインネーム サービス) を使用しない導入環境のみ)
- Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのセキュリティ パスワード
- 標準 AXL API アクセス ロールのユーザ ID とパスワード

詳細については、「[必要なインストール情報](#)」(P.4-3) を参照してください。

Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードのシステム時刻

Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードのインストール時は、外部 Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) サーバを指定し、パブリッシャ ノードに正確なシステム時刻が設定されるようにする必要があります。Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードを単独の NTP サーバとして設定することを推奨します。つまり、クラスタ内のそれ以降のすべてのノードが Cisco Unified Communications Manager サーバから時刻を設定するようにします。

何らかの理由で Cisco Unified Communications Manager を NTP サーバとして設定しない場合は、最低 3 つの他の NTP サーバを指定し、それらのサーバが Stratum 9 以上となるようにする必要があります。ただし、インストール時にパブリッシャ ノードに設定した NTP サーバに関係なく、Cisco Unified Presence の管理ページでインストール導入後ウィザードの完了後には、Cisco Unified Communications Manager を使用してクラスタ内のすべての Cisco Unified Presence ノードの時刻が設定され、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence の間の時刻の一貫性が確保されます。

Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの NTP サービスが正常に機能していることを確認するには、[Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] > [設定 (Settings)] > [NTP サーバ (NTP Servers)] を選択するか、CLI コマンド `utils ntp status` を入力します。

Cisco Unified Presence のライセンス要件

- 「[ライセンス モード](#)」(P.3-2)
- 「[ユーザおよびサーバ ライセンスの要件](#)」(P.3-4)

ライセンス モード

Cisco Unified Presence の新規インストール直後から、デフォルトで 90 日間の試用期間が開始されます。この期間中は次のことを行えます。

- 組織に Cisco Unified Presence サーバのライセンスがなくても、このサーバを実行できる

- この組織内のユーザで、Cisco Unified Communications Manager にすでに設定されているユーザは、Cisco Unified Presence にアクセスが可能で、Cisco Unified Personal Communicator を必要なユーザ ライセンス (DLU) がなくても使用できるように設定できる

試用期間の終了後は、ユーザが Cisco Unified Presence の機能にアクセスできなくなります。Cisco Unified Presence サーバの永続的な実稼動モードを有効にするには、サーバ ライセンス ファイルと必要なユーザ ライセンスをアップロードする必要があります。

制約事項

- 90 日の試用期間：試用期間は最初に Cisco Unified Presence をインストールしてから 90 日後に期限切れとなります。期限切れまでの残り日数を確認するには、Cisco Unified Presence の管理ページおよび Real-Time Monitoring Tool の Syslog ビューアでライセンス警告メッセージを調べてください。試用期間の終了 30 日前からアラーム通知が開始され、試用期間の終了日に最後のアラームが発生します。
- リリースごとに 1 回の評価：Cisco Unified Presence のリリースごとに 1 回だけ試用できます。1 つのリリースを複数回試用することはできません。
- アップグレード不可：新規インストール後、Cisco Unified Presence サーバが評価モードで動作中は、Cisco Unified Presence で永続的な実稼動モードを有効にするまでアップグレードできません。
- SoftPhone クライアントがアクティブ化されない：Cisco Unified Presence サーバが評価モードで動作中は、Cisco Unified Personal Communicator のユーザがインスタント メッセージとプレゼンス情報を交換し、固定電話制御を使用することができます。ただし、試用期間中は Cisco Unified Personal Communicator のソフトフォンクライアント機能が Cisco Unified Presence でアクティブ化されません。

表 3-1 に Cisco Unified Presence のライセンス モードを示します。

表 3-1 Cisco Unified Presence のライセンス モード

ライセンス動作	Cisco Unified Presence ユーザ	Cisco Unified Personal Communicator ユーザ
評価モード		
<ul style="list-style-type: none"> ユーザはライセンス ファイルをアップロードすることなく、Cisco Unified Presence を手動で起動できる。 Cisco Unified Presence の管理ページの警告メッセージに、Cisco Unified Presence が評価モードであることが示される。Real-Time Monitoring Tool (Syslog ビューア) にも、ライセンスのアラームメッセージが表示される。 	<p>Cisco Unified Communications Manager で設定されたすべてのユーザが Cisco Unified Presence を使用できる。Device License Unit (DLU) は不要。</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager で設定されたすべてのユーザが Cisco Unified Personal Communicator を使用できる。Device License Unit (DLU) は不要。</p> <p>評価モードでは、Cisco Unified Presence が Cisco Unified Personal Communicator のソフトフォンクライアント機能をアクティブ化しない。</p>

表 3-1 Cisco Unified Presence のライセンス モード (続き)

ライセンス動作	Cisco Unified Presence ユーザ	Cisco Unified Personal Communicator ユーザ
評価モード：期限切れ		
<ul style="list-style-type: none"> ユーザは Cisco Unified Presence の機能にアクセスできない。Cisco UP Presence Engine および Cisco UP SIP Proxy サービスがシャットダウンされ、有効なライセンス ファイルがアップロードされるまで再起動できなくなる。 Cisco Unified Presence の管理ページの警告メッセージに、Cisco Unified Presence の評価モードが期限切れになったことが示される。Real-Time Monitoring Tool (Syslog ビューア) にも、ライセンスのアラーム メッセージが表示される。 	管理者は、Cisco Unified Presence の管理ページにログインして有効なライセンスをアップロードできる。	ユーザは Cisco Unified Personal Communicator にログインできない。
実稼動モード		
管理者は有効なサーバライセンス ファイルをアップロードし、Cisco Unified Presence で実稼動モードを有効にする必要がある。 (注) 試用期間の期限切れ前と後のどちらでも、Cisco Unified Presence にサーバライセンスをアップロードできる。	Cisco Unified Communications Manager で設定されたすべてのユーザが Cisco Unified Presence を使用できる。Device License Unit (DLU) が必要。	Cisco Unified Communications Manager で設定されたすべてのユーザが Cisco Unified Personal Communicator を使用できる。Device License Unit (DLU) が必要。

関連項目

Real-Time Monitoring Tool (Syslog ビューア) で、評価モードまたは評価期限切れモードで表示されるライセンス アラーム メッセージを参照してください。

ユーザおよびサーバライセンスの要件

この項では、Cisco Unified Presence のユーザおよびサーバライセンスについて説明します。

- Cisco Unified Presence ユーザ機能ライセンス
- Cisco Unified Presence サーバライセンス
- Cisco Unified Presence ソフトウェア バージョン ライセンス



(注) Cisco Unified Presence 8.x では準拠性を指向するお客様向けに、Cisco Unified Communications のライセンス構造に合わせて、エンドユーザライセンス契約が導入されました。

Cisco Unified Presence ユーザ機能ライセンス

プレゼンス機能は、Cisco Unified Presence ユーザごとに割り当てる必要があります。それにより、Cisco Unified Communications Manager の Device License Unit (DLU) が1つ消費されます。

各ユーザに関連付けられているクライアントの数に関係なく、ユーザ単位で Cisco Unified Presence を有効にできます。ユーザに Cisco Unified Presence 機能を割り当てると、ユーザがアベイラビリティの更新を送受信できるようになります。ユーザに対して Cisco Unified Presence 機能を有効にしなかった場合、そのユーザにはアベイラビリティの更新が許可されません。

Cisco Unified Communications Manager にユーザ DLU をアップロードしてから、そのユーザに Cisco Unified Presence 機能を割り当てる必要があります。

ユーザが Cisco Unified Personal Communicator を Cisco Unified Presence でソフトクライアントとして使用している場合は、そのユーザを明示的に Cisco Unified Personal Communicator に割り当てる必要があります。Cisco Unified Presence の End User License Agreement (EULA) と同様、これによって Cisco Unified Communications Manager の DLU が1つ消費されます。

Cisco Unified Presence サーバライセンス

Cisco Unified Presence サーバごとにサーバライセンスが1つ必要です。このライセンスでは、Cisco Unified Presence での Cisco UP Presence Engine および Cisco UP SIP Proxy サービスのサービス起動も対象となります。



(注)

これが適用されるのは、Cisco Unified Presence のパブリッシュャノードを設定する場合、または Cisco Unified Presence で永続的な実稼動モードを有効にする場合のみです。

Cisco Unified Presence ソフトウェアは、1台のサーバとして導入することも、最大6台のサーバによるクラスタとして導入することもできます。各 Cisco Unified Presence サーバごとに個別のサーバライセンスを購入する必要がありますが、ライセンスファイルにはお客様にライセンス供与されるクラスタ内の Cisco Unified Presence サーバの台数が含まれているため、ライセンスをアップロードする必要があるのはクラスタ内の最初のノードだけです。

Cisco Unified Presence Release 8.x では、物理サーバの MAC アドレス、または VMware サーバのライセンス MAC 値を指定して、Cisco Unified Presence のライセンスを取得する必要があります。物理サーバに対して発行されたライセンスは、物理サーバにだけアップロードできます。同様に、VMware ライセンス ファイルは VMware サーバにだけアップロードできます。

Cisco Unified Presence を VMware サーバにインストールする方法については、次の URL にある Cisco Unified Presence docwiki で「Virtualization」を参照してください。
http://docwiki.cisco.com/w/index.php?title=Virtualization_for_Cisco_Unified_Presence&oldid=71396

Cisco Unified Presence ソフトウェア バージョン ライセンス

ソフトウェア バージョン ライセンスが必要になるのは、Cisco Unified Presence Release 8.x へのアップグレードを行う場合だけです。Cisco Unified Presence クラスタごとに1つのソフトウェア バージョンライセンスが必要です。ソフトウェア バージョン ライセンスでは、アップグレード後に Cisco Unified Presence で Cisco UP Presence Engine および Cisco UP SIP Proxy サービスのサービス起動が可能です。アップグレードの詳細については、『*Upgrade Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

Cisco Unified Presence ライセンスの取得およびアップロード方法については、「Cisco Unified Presence ライセンス ファイルの取得とアップロード」(P.6-5)を参照してください。



CHAPTER 4

はじめる前に

- 「最初にお読みください」 (P.4-1)
- 「インストール時間の要件」 (P.4-1)
- 「システム要件」 (P.4-2)
- 「ハードウェアおよびソフトウェアの要件」 (P.4-10)
- 「インストール前のチェックリスト」 (P.4-10)
- 「クラスタトポロジ」 (P.4-11)
- 「Cisco Unified Presence の無人インストール」 (P.4-11)

最初にお読みください

Cisco Unified Presence を既存のサーバにインストールする場合は、ハードドライブがフォーマットされ、ドライブ上の既存データがすべて上書きされることに注意してください。

DNS 要件

次の DNS 要件に注意してください。

- 混合モードの DNS 導入はサポートされません。シスコでは混合モードの導入をサポートしていません。Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence の両方で DNS を使用するか、使用しないかのいずれかにする必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence は、同じ DNS サーバを使用する必要があります。Cisco Unified Presence と Cisco Unified Communications Manager で別の DNS サーバを使用していると、システムの動作に異常が発生する場合があります。
- マルチノードに関する考慮事項：Cisco Unified Presence でマルチノード機能を使用している場合の DNS 設定オプションについては、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』のマルチノードの導入に関するセクションを参照してください。

インストール時間の要件

Cisco Unified Presence インストール全体のプロセスには、サーバのタイプに応じて、サーバ 1 台あたり 45 分から 120 分を要します（インストール前後の作業を除く）。

システム要件

- 「必要なパスワード」 (P.4-2)
- 「必要なインストール情報」 (P.4-3)

必要なパスワード

インストール中に指定しなければならないユーザ名およびパスワードは、次のとおりです。

- 「管理者アカウント ユーザ名およびパスワード」
- 「アプリケーション ユーザ名およびパスワード」
- 「セキュリティ パスワード」

管理者アカウント ユーザ名およびパスワード

次のインターフェイスにログインするには、管理者アカウントのユーザ名とパスワードを作成する必要があります。

- Cisco Unified Operating System の管理インターフェイス
- Disaster Recovery System の管理インターフェイス
- コマンドライン インターフェイス (CLI)

管理者ログインは、先頭がアルファベットで 6 文字以上必要です。英数字、ハイフン、およびアンダースコアを使用できます。

管理者のパスワードを紛失してシステムにアクセスできない場合は、Cisco Unified Communications Operating System の管理ページで、管理者パスワードを復旧できます。

管理者パスワードのリセットが必要な場合は、CLI を使用します。必要な CLI の構文については、「必要なインストール情報」 (P.4-3) を参照してください。

アプリケーション ユーザ名およびパスワード

Cisco Unified Presence の管理インターフェイスにログインするには、アプリケーション ユーザ ID とパスワードを作成する必要があります。

アプリケーション ユーザ パスワードのリセットが必要な場合は、CLI を使用します。必要な CLI の構文については、「必要なインストール情報」 (P.4-3) を参照してください。

セキュリティ パスワード

インストール中にシステム セキュリティ パスワードを指定する必要があります。このパスワードは、クラスタ ノード間のセキュアな通信に使用されます。Cisco Unified Presence の管理に初めてログインしたときに表示されるインストール後の導入ウィザードで、セキュリティ パスワードを Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバで使用されるパスワードと同一になるようにリセットする必要があります。



(注)

インストール後の導入ウィザードで Cisco Unified Presence に設定するセキュリティ パスワードは、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバで使用されるパスワードと同一にする必要があります。システムでは、このパスワードを使用して、ノード間の通信が許可されます。このパスワードは、クラスタ内のすべてのノードで同じにする必要があります。

Cisco Unified Communications Manager のセキュリティ パスワードを紛失した場合は、Cisco Unified Presence から Cisco Unified Communications Manager サーバでのセキュリティ パスワードを確認できません。セキュリティ パスワードの取得方法については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

Cisco Unified Presence の管理ページに初めてログインした後に Cisco Unified Communications Manager セキュリティ パスワードをリセットする場合（たとえば、パスワードを Cisco Unified Communications Manager で変更して、これを Cisco Unified Presence でアップデートする必要がある場合）、Cisco Unified Presence の管理ページで [システム (System)] > [CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)] を選択します。

必要なインストール情報

Cisco Unified Presence をサーバにインストールするには、インストール プロセスで特定の情報を指定する必要があります。この情報はインストール中に手動で入力するか、応答ファイルを使用して提供してください。クラスタにインストールする Cisco Unified Presence サーバごとに、この情報を収集してからインストール プロセスを開始します。

表 4-1 に、Cisco Unified Presence をインストールする前に収集する必要のある情報の一覧を示します。



(注)

フィールドの一部は省略可能であるため、設定に適用されない場合があります。たとえば、インストール時に SMTP ホストを設定しない場合もパラメータは表示されますが、値を入力する必要はありません。

表の一番右の列に、インストール後にフィールドを変更できるかどうかを示しています。また、変更可能な場合は、該当するメニューパスまたは Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) を記載しています。

表 4-1 必要なインストール情報

設定データ	説明	インストール後に編集可能
管理者の資格情報		
管理者のログイン	管理者アカウントに割り当てる名前を指定します。	No
管理者のパスワード	管理者アカウントのパスワードを指定します。	Yes CLI : set password admin
アプリケーション ユーザの資格情報		
アプリケーション ユーザのユーザ名	Cisco Unified Presence の管理のユーザ ID を指定します。	Yes CLI : utils reset ui administrator name

表 4-1 必要なインストール情報 (続き)

設定データ	説明	インストール後に編集可能
アプリケーション ユーザのパスワード	Cisco Unified Presence の管理のパスワードを指定します。	Yes CLI : utils reset ui administrator password
セキュリティ パスワード		
Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのセキュリティ パスワード	各 Cisco Unified Presence サーバに設定するセキュリティ パスワードは、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバで使用されるパスワードと同一にする必要があります。	Yes 初期インストール中に入力したセキュリティ パスワードは、次の2つの方法のいずれかで変更できます。 <ul style="list-style-type: none">• Cisco Unified Presence の管理ページにあるインストール後ウィザードでの設定時• Cisco Unified Presence の管理ページで、[システム (System)]> [CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)]の順に選択
証明書情報		
マニュアルの構成	証明書署名要求の作成に使用します。	Yes CLI : set web-security
部署	証明書署名要求の作成に使用します。	Yes CLI : set web-security
場所	証明書署名要求の作成に使用します。	Yes CLI : set web-security
都道府県	証明書署名要求の作成に使用します。	Yes CLI : set web-security
国	証明書署名要求の作成に使用します。	Yes CLI : set web-security [orgunit] [orgname] [locality] [state]
(オプション) SMTP		
SMTP ロケーション	電子メールの発信に使用する SMTP ホストの名前を指定します。 電子通知を使用する場合、このフィールドは必須です。使用しない場合は空白のままにします。	Yes <ul style="list-style-type: none">• Cisco Unified Communications Operating System の管理ページで、[設定 (Settings)]> [SMTP] の順に選択し、[SMTP ホスト (SMTP Host)] フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力• CLI : set smtp

表 4-1 必要なインストール情報 (続き)

設定データ	説明	インストール後に編集可能
NIC インターフェイス設定		
NIC 速度	Ethernet Network Interface Card (NIC;イーサネットネットワーク インターフェイス カード) 速度の自動ネゴシエーションを有効にしている場合、NIC 速度 (10 メガビットまたは 100 メガビット) を選択する必要があります。	Yes CLI : set network nic
NIC 二重化	Ethernet Network Interface Card (NIC;イーサネットネットワーク インターフェイス カード) デュプレックス設定の自動ネゴシエーションを有効にしている場合、NIC デュプレックス設定 (全二重または半二重) を選択する必要があります。	Yes CLI : set network nic
MTU サイズ (注) この値は、Cisco Unified Communications Manager サーバで入力した値と同一にする必要があります。値が異なると、インストールに失敗します。	MTU (Maximum Transmission Unit) は、このホストがネットワークで転送する最大パケットをバイト単位で表します。 MTU 設定は、クラスタ内のすべてのノードで同一にする必要があります。	Yes CLI : set network mtu (注) Cisco Unified Presence のこの値を変更する場合は、Cisco Unified Communications Manager の値と同一にする必要があります。
ネットワーク情報		
DHCP (ダイナミック ホスト コンフィギュレーションプロトコル)	DHCP を使用してサーバのネットワーク設定を自動的に行うには、[はい (Yes)] を選択します。 [いいえ (No)] を選択した場合、ホスト名、IP アドレス、IP マスク、ゲートウェイ、および DNS 設定の入力が必要です。	可能 • [Cisco Unified OS の管理(Cisco Unified OS Administration)] で、 [設定 (Settings)] > [IP] > [パブリッシャ (Publisher)] の順に選択 • CLI : set network dhcp

表 4-1 必要なインストール情報 (続き)

設定データ	説明	インストール後に編集可能
ホスト名 (注) Cisco Unified Presence サーバのホスト名を変更する方法については、『 <i>Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Presence</i> 』を参照してください。	DHCP が No に設定されている場合は、このマシンのホスト名を入力する必要があります。	Yes <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Operating System の管理ページで、[設定 (Settings)] > [IP] > [イーサネット (Ethernet)] の順に選択 • CLI : set network IP
IP アドレス (注) Cisco Unified Presence サーバの IP アドレスを変更する方法について、『 <i>Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Presence</i> 』を参照してください。	DHCP が No に設定されている場合は、このマシンの IP アドレスを入力する必要があります。	Yes <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Operating System の管理ページで、[設定 (Settings)] > [IP] > [イーサネット (Ethernet)] の順に選択 • CLI : set network IP eth0 [ip-address] [ip-mask]
IP マスク	DHCP が No に設定されている場合は、このマシンの IP サブネットマスクを入力する必要があります。サブネットマスクと IP アドレスで、ネットワーク アドレスおよびホストアドレスを指定します。	Yes <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Operating System の管理ページで、[設定 (Settings)] > [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択 • CLI : set network IP eth0 [ip-address] [ip-mask]
ゲートウェイアドレス	DHCP が No に設定されている場合は、ゲートウェイアドレスを入力する必要があります。	可能 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Operating System の管理ページで、[設定 (Settings)] > [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択 • CLI : set network gateway
(オプション) DNS		
プライマリ DNS	Domain Name Server (DNS; ドメイン名サーバ) を備えている場合、Cisco Unified Presence はホスト名の解決を試みる際に、この DNS サーバに最初に接続します。	Yes CLI : set network dns primary
セカンダリ DNS	プライマリ DNS サーバに障害が発生した場合、Cisco Unified Presence はセカンダリ DNS サーバに接続を試みます。	Yes CLI : set network dns secondary

表 4-1 必要なインストール情報 (続き)

設定データ	説明	インストール後に編集可能
ドメイン	このマシンが設置されているドメインの名前を表します。	Yes CLI : <code>set network domain</code>
時間帯		
時間帯	現地時間帯と Greenwich Mean Time (GMT; グリニッジ標準時) からのオフセットを示します。マシンが設置されている場所に最も近い時間帯を選択します。	Yes CLI : <code>set timezone</code>
ネットワーク タイム プロトコル		
NTP サーバの IP アドレス	Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードのインストール時に、外部 Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) サーバの IP アドレスを指定する必要があります。Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードを NTP サーバとして使用することを推奨します。	Yes Cisco Unified Communications Operating System の管理ページで、[設定 (Settings)] > [NTP サーバ (NTP Servers)] の順に選択
Cisco Unified Presence パブリッシャ ノード		
Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードのホスト名 (注) Cisco Unified Presence サーバのホスト名を変更する方法については、『 <i>Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Presence</i> 』を参照してください。	サブスクリバ ノードをクラスタに追加する際に、Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードのホスト名が必要です。	Yes Cisco Unified Communications Operating System の管理ページで、[設定 (Settings)] > [IP] > [パブリッシャ (Publisher)] の順に選択 (注) ネットワーク設定の目的で、Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのホスト名を変更した場合だけに適用されます。これを実行する場合は、Cisco Unified Presence 内の後続のサーバで、パブリッシャ サーバの IP アドレスを更新する必要があります。

表 4-1 必要なインストール情報 (続き)

設定データ	説明	インストール後に編集可能
Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードの IP アドレス (注) Cisco Unified Presence サーバのホスト名を変更する方法については、『 <i>Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Presence</i> 』を参照してください。	ネットワークに DNS がない場合は、サブスクリバノードをクラスタに追加する際に Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードの IP アドレスを指定する必要があります。	Yes Cisco Unified Communications Operating System の管理ページで、[設定 (Settings)] > [IP] > [パブリッシャ (Publisher)] の順に選択 (注) ネットワーク設定の目的で、Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのホスト名を変更した場合だけに適用されます。これを実行する場合は、Cisco Unified Presence 内の後続のサーバで、パブリッシャ サーバの IP アドレスを更新する必要があります。
Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノード		
Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのホスト名	Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードのインストール後の導入ウィザードを実行する際に、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのホスト名が必要です。	Yes Cisco Unified Presence の管理ページで、[システム (System)] > [CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)] の順に選択
Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードの IP アドレス	Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードのインストール後の導入ウィザードを実行する際に、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのホスト名が必要です。	Yes Cisco Unified Presence の管理ページで、[システム (System)] > [CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)] の順に選択

表 4-1 必要なインストール情報 (続き)

設定データ	説明	インストール後に編集可能
Cisco Unified Communications Manager AXL 資格情報		
AXL ユーザ	AXL とは、Cisco Unified Presence が Cisco Unified Communications Manager との通信に使用する API です。 パブリッシャ ノードのインストール時に、Cisco Unified Communications Manager AXL ユーザ名をインストール後の導入ウィザードで指定する必要があります。	Yes Cisco Unified Presence の管理ページで、 [システム (System)] > [CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)] の順に選択
AXL パスワード	パブリッシャ ノードのインストール時に、Cisco Unified Communications Manager AXL パスワードをインストール後の導入ウィザードで指定する必要があります。	Yes Cisco Unified Presence の管理ページで、 [システム (System)] > [CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)] の順に選択

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

次のサーバでサポートされるハードウェアに関する情報を確認してください。

- Cisco Unified Presence サーバ

Cisco Unified Presence のハードウェア サポートについては、『*Hardware and Software Compatibility Information for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

- Cisco Unified Communications Manager サーバ

Cisco Unified Communications Manager のハードウェア サポートについては、次の URL にある Cisco Unified Communications Manager 互換性マトリクスを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_device_support_tables_list.html

ネットワークに Cisco Unified Presence マルチノード機能を設定している場合は、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』でマルチノードハードウェアの推奨事項を確認してください。

ソフトウェアの互換性については、『*Hardware and Software Compatibility Information for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

ソフトウェアの制限事項

Cisco Unified Presence は、シスコシステムズが承認したソフトウェアだけをアップロードおよび処理できます。サードパーティの Linux または Windows ベースのソフトウェア アプリケーションを、Cisco Unified Presence にインストールしたり使用することはできません。Cisco Unified Communications Operating System の管理ページで、有効なソフトウェアのインストールおよびアップグレードを実行してください。

インストール前のチェックリスト

Cisco Unified Presence ソフトウェアのインストールを開始する前に、次のインストール準備作業を完了しておく必要があります。

1. Cisco Unified Presence ソフトウェアのインストールおよび設定の実行に必要なすべての情報を収集します。
「必要なインストール情報」(P.4-3) を参照してください。
2. サブスクリバ ノードをインストールする場合は、Cisco Unified Presence パブリッシュ ノードのクラスタ ポロジにサブスクリバ ノードを追加する必要があります。「クラスタ ポロジ」(P.4-11) を参照してください。
3. Cisco Unified Presence サーバが Cisco Unified Communications Manager パブリッシュ サーバにネットワーク アクセスできることを確認します。
Cisco Unified Communications Manager に、他のサーバから ping を実行します。
4. 対応する Cisco Unified Communications Manager サーバで Cisco AXL Web Service が起動していることを確認します。
Cisco Unified Serviceability で [ツール (Tools)] > [サービスの起動 (Service Activation)] の順に選択します。
5. DNS を使用する場合は、DNS サーバで新しい Cisco Unified Presence サーバのホスト名を設定したことを確認します。また、DNS サーバが、Cisco Unified Communications Manager パブリッシュ サーバのホスト名、および他の Cisco Unified Presence サーバ (存在する場合) のホスト名を解決できることを確認します。



注意

Cisco Unified Presence と Cisco Unified Communications Manager で同じ DNS サーバを使用することを推奨します。異なる DNS サーバを使用すると、システムの動作に異常が発生する場合があります。シスコでは混合モードの導入をサポートしていないため、DNS を Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence の両方で使用するか、両方で使用しない必要があります。Cisco Unified Presence でマルチノード機能を使用する場合は、DNS 設定オプションについて『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

クラスタ トポロジ

システムは、インストールした最初の Cisco Unified Presence ノードをパブリッシャ ノードとして自動的に割り当てます。マルチノード Cisco Unified Presence 導入の場合、パブリッシャ ノードのインストール後に、Cisco Unified Presence クラスタに必要なサブクラスタとサブスライバ ノードを作成する必要があります。Cisco Unified Presence の管理ページで [システム (System)] > [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択し、Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードでシステム トポロジ設定を実行してください。マルチノードインストールの新規実行については、「[マルチノードの新規インストールの実行](#)」(P.5-16) を参照してください。

サブスライバ ノードをご使用のトポロジに（パブリッシャ ノード上に）作成してから、これらのノードに Cisco Unified Presence ソフトウェアをインストールする必要があります。ただし、これらのサブスライバ ノードに Cisco Unified Presence ソフトウェアをインストールするまでは、サブスライバ ノードをサブクラスタに割り当てることはできません。インストールする前にサブスライバ ノードをサブクラスタに割り当てると、リモート クラスタのユーザがプレゼンス情報を受け取ることができなくなります。サブスライバ ノードをインストールするまで、プレゼンス停止が発生します。複数のノードをクラスタに導入する標準的なプロセスは次のとおりです。

1. パブリッシャ ノードをインストールします。
2. パブリッシャ ノードのクラスタ トポロジで、すべてのサブクラスタとサブスライバ ノードを作成します。
3. クラスタのサブスライバ ノードをそれぞれインストールします。
4. パブリッシャ ノードのクラスタ トポロジで、必要に応じてサブスライバ ノードをサブクラスタ配置に割り当てます。

クラスタ トポロジの設定の詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

Cisco Unified Presence の無人インストール

Cisco Unified Presence は、インストール プロセス中に定義済みの設定値を読み取る XML 応答ファイルを使用して、無人インストールを実行できます。

Cisco Unified Communications Answer File Generator は、Cisco Unified Presence の無人インストール用の応答ファイルを生成する Web アプリケーションです。インストール プロセス中に応答ファイルを生成し、これを USB キーにコピーして Cisco Unified Presence DVD と共に使用してください。

生成された XML 応答ファイルはかなり大きくなる（たとえば 1 GB）ことがあります。そのため、この XML ファイルを USB キーに保存する前に、大容量ストレージをサポートするよう USB キーの再フォーマットが必要になる場合があります。USB キーの再フォーマットの詳細については、「[FAT32 ファイル システムへの USB キーの再フォーマット](#)」(P.4-13) を参照してください。



(注) 応答ファイルは Cisco Unified Presence のフレッシュ インストールだけに使用可能で、アップグレードには使用できません。

Cisco Unified Presence の無人インストールおよび設定用に応答ファイルを生成するには、次の URL にある Cisco Unified Communications Answer File Generator にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/web/cuc_afg/index.html

この Web アプリケーションでは、次の機能がサポートされています。

- パブリッシャ サーバとすべての後続サーバにおける無人インストール用応答ファイルの同時生成と保存
- データ エントリの構文的な検証
- Internet Explorer バージョン 6.0 以降および Mozilla バージョン 1.5 以降のサポート
- オンライン ヘルプおよびマニュアルの表示


応答ファイルの生成

次の手順で、Cisco Unified Communications Answer File Generator を使用して応答ファイルを生成する方法について説明します。

はじめる前に

必要なインストールおよび設定情報を収集します。「必要なインストール情報」(P.4-3) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 次の URL にある Cisco Unified Communications Answer File Generator にアクセスします。
http://www.cisco.com/web/cuc_afg/index.html
- ステップ 2** インストールするノードに必要な情報を入力します。クラスタ内に、パブリッシャ ノードと最大 5 つのサブスクリバ ノードのインストールおよび設定情報を指定できます。
-  (注) DHCP クライアントがパブリッシャ サーバで使用されていて、後続サーバの応答ファイルも生成されている場合、パブリッシャ サーバの IP アドレスを指定する必要があります。
-
- ステップ 3** [応答ファイルの生成 (Generate Answer Files)] を選択します。
- ステップ 4** 手順に従って、応答ファイルをダウンロードします。インストールと設定対象の各ノードについて、応答ファイルが個々に生成されます。
-

FAT32 ファイル システムへの USB キーの再フォーマット

場合によっては、Windows XP のディスクの管理ユーティリティを使用して、応答ファイル用の USB キーを FAT32 ファイル システムに再フォーマットする必要があります。FAT ファイル システム フォーマットは大容量ストレージ（たとえば 1 GB）に対応できます。この手順を実行するには、管理者または管理者グループのメンバーになることが必要になる場合があります。

手順

-
- ステップ 1** Windows XP コンピュータの USB スロットに USB キーを挿入します。
 - ステップ 2** [スタート (Start)] > [コントロール パネル (Control Panel)] > [管理ツール (Administrative Tools)] の順に選択し [コンピュータの管理 (Computer Management)] をダブルクリックします。
 - ステップ 3** ストレージ ツリーを展開し、[ディスクの管理 (Disk Management)] を選択します。
 - ステップ 4** [リムーバブル ディスク (Removable Disk)] アイコンを右クリックして [フォーマット (Format)] を選択します。
 - ステップ 5** このパーティションをフォーマットするかどうかの確認を求められたら、[はい (Yes)] をクリックします。
 - ステップ 6** [ファイル システム (File System)] を選択し、リストボックスから [FAT32] を選択します。
 - ステップ 7** [OK] を選択します。ボリュームのフォーマットを確認するプロンプトが表示されたら、もう一度 [OK] をクリックします。
-



(注) 応答ファイルを使用した Cisco Unified Presence のインストールおよび設定手順の詳細については、「[応答ファイルを使用した Cisco Unified Presence のインストールと設定](#)」(P.5-8) を参照してください。



CHAPTER 5

インストール

- [「インストールの概要」 \(P.5-1\)](#)
- [「インストール ウィザードの操作」 \(P.5-7\)](#)
- [「Cisco Unified Presence のインストールと設定」 \(P.5-7\)](#)
- [「マルチノードの新規インストールの実行」 \(P.5-16\)](#)

インストールの概要

Cisco Unified Presence は、パブリッシャ ノードおよびサブスクリイバ ノードについて、次のインストール オプションと設定オプションをサポートします。

- 応答ファイルを使用した Cisco Unified Presence の無人インストールと設定
- Cisco Unified Presence の手動インストールと設定
- プレインストールされた Cisco Unified Presence サーバの設定

インストールと設定のタスクフロー

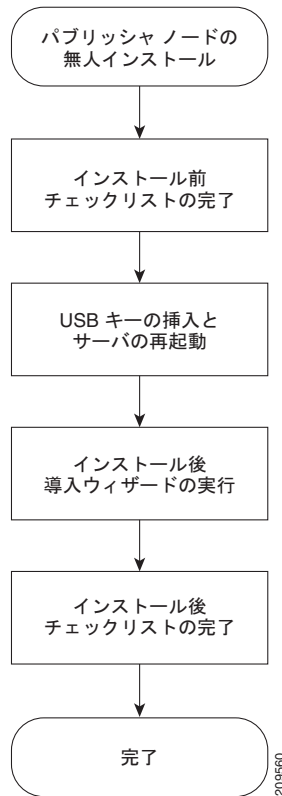
このマニュアルは、次のようなさまざまなインストール シナリオを実行する際に使用できます。

- [「パブリッシャ ノードの無人インストールと設定」](#)
- [「サブスクリイバ ノードの無人インストールと設定」](#)
- [「パブリッシャ ノードの手動インストールと設定」](#)
- [「サブスクリイバ ノードの手動インストールと設定」](#)
- [「既存のクラスタへの新しいノードの追加」](#)

次の各項では、これらのインストール シナリオにおいてそれぞれ実行する必要があるタスクの概略を示します。また、各タスクの概略と共に本マニュアルの別の項へのリンクを記載しています。このリンクから各タスクの詳細情報を参照できます。

パブリッシャ ノードの無人インストールと設定

図 5-1 パブリッシャ ノードの無人インストールと設定

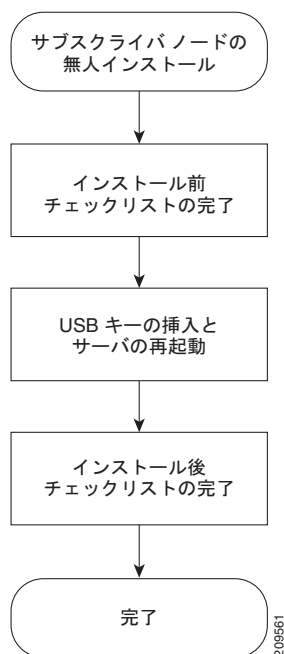


次のリストは、応答ファイルを使用してパブリッシャ ノードにソフトウェアを自動的にインストールして設定するために実行する必要のある手順を示しています。

1. 現在のサイトに必要なインストール前の作業をすべて実行します。
「インストール前のチェックリスト」(P.4-10) を参照してください。
2. 手順に従って、パブリッシャ ノードでの無人インストール用の応答ファイルを使用します。
「応答ファイルを使用した Cisco Unified Presence のインストールと設定」(P.5-8) を参照してください。
3. 手順に従って、パブリッシャ ノードでインストール後の導入ウィザードを実行します。
「インストール後の導入ウィザードの実行」(P.5-12) を参照してください。
4. 現在のサイトに必要なインストール後の作業をすべて実行します。
「インストール後のチェックリスト」(P.6-1) を参照してください。

サブスクライバノードの無人インストールと設定

図 5-2 サブスクライバノードの無人インストールと設定

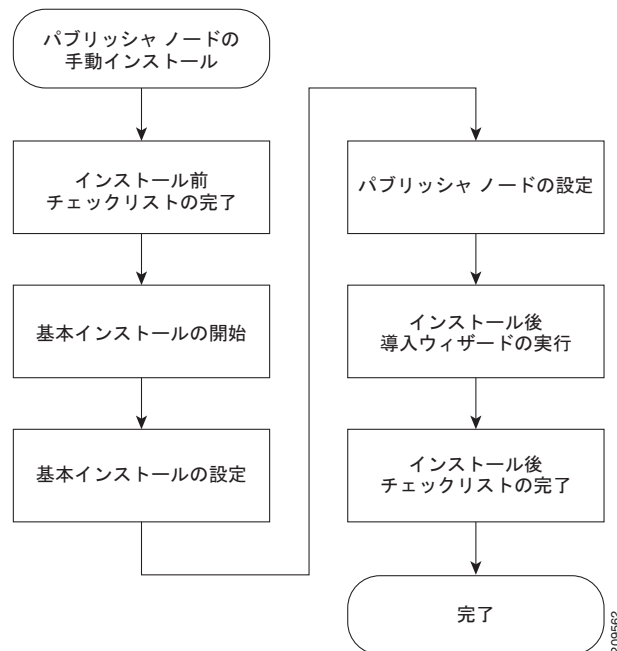


次のリストは、応答ファイルを使用してサブスクライバノードにソフトウェアを自動的にインストールして設定するために実行する必要のある手順を示しています。

1. 現在のサイトに必要なインストール前の作業をすべて実行します。
「インストール前のチェックリスト」(P.4-10) を参照してください。
2. 手順に従って、サブスクライバノードでの無人インストール用の応答ファイルを使用します。
「応答ファイルを使用した Cisco Unified Presence のインストールと設定」(P.5-8) を参照してください。
3. 現在のサイトに必要なインストール後の作業をすべて実行します。
「インストール後のチェックリスト」(P.6-1) を参照してください。

パブリッシャ ノードの手動インストールと設定

図 5-3 パブリッシャ ノードの手動インストールと設定

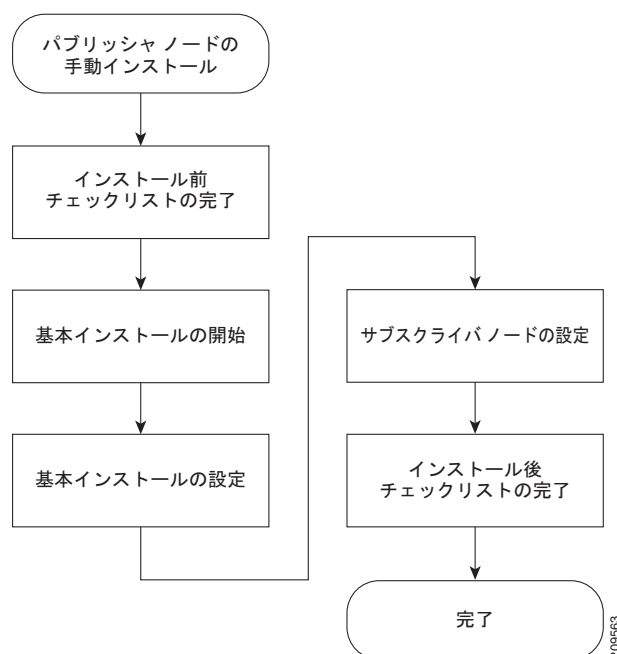


次のリストは、DVD に含まれるソフトウェアをパブリッシャ ノードに手動でインストールして設定するために実行する必要のある手順を示しています。

1. 現在のサイトに必要なインストール前の作業をすべて実行します。
「インストール前のチェックリスト」(P.4-10) を参照してください。
2. 手順に従って、DVD からサーバへのソフトウェアのインストールを開始します。
「基本インストールの開始」(P.5-9) を参照してください。
3. 手順に従って、基本インストールを設定します。
「基本インストールの設定」(P.5-10) を参照してください。
4. 手順に従って、クラスタ内にパブリッシャ ノードを設定します。
「パブリッシャ ノードの設定」(P.5-12)
5. 手順に従って、パブリッシャ ノードでインストール後の導入ウィザードを実行します。
「インストール後の導入ウィザードの実行」(P.5-12) を参照してください。
6. 現在のサイトに必要なインストール後の作業をすべて実行します。
「インストール後のチェックリスト」(P.6-1) を参照してください。

サブスクライバノードの手動インストールと設定

図 5-4 サブスクライバノードの手動インストールと設定

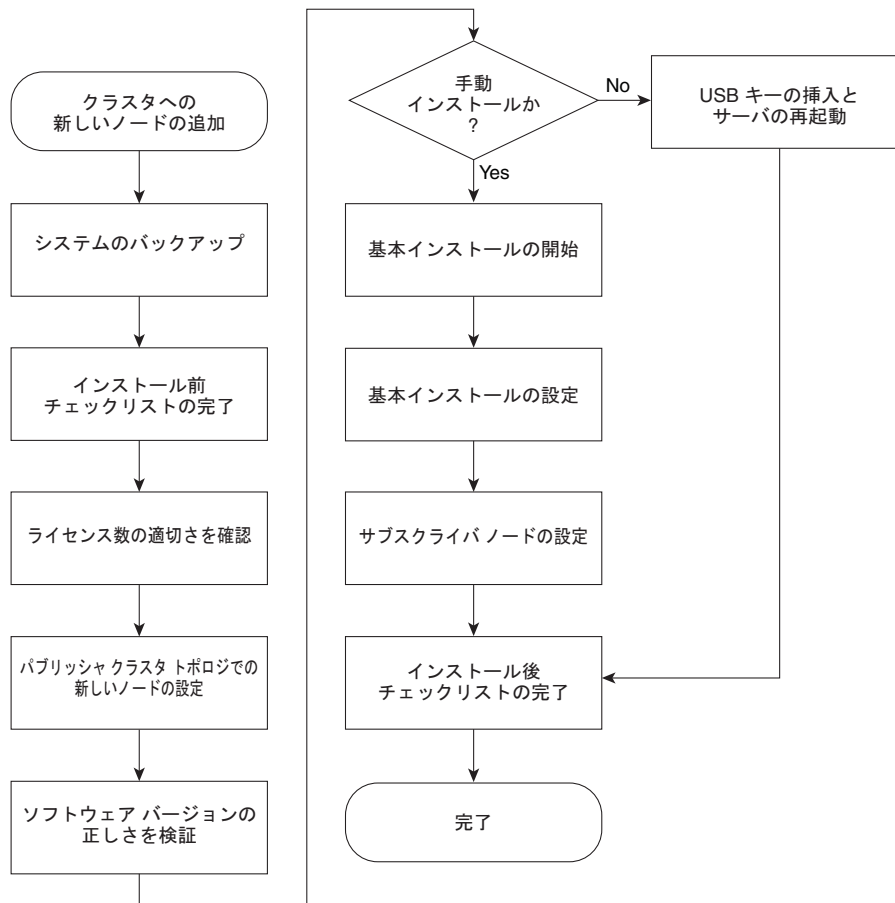


次のリストは、DVD に含まれるソフトウェアをサブスクライバノードに手動でインストールして設定するために実行する必要がある手順を示しています。

1. 現在のサイトに必要なインストール前の作業をすべて実行します。
「インストール前のチェックリスト」(P.4-10) を参照してください。
2. 手順に従って、DVD からサーバへのソフトウェアのインストールを開始します。
「基本インストールの開始」(P.5-9) を参照してください。
3. 手順に従って、基本インストールを設定します。
「基本インストールの設定」(P.5-10) を参照してください。
4. 手順に従って、クラスタ内にサブスクライバノードを設定します。
「サブスクライバノードの設定」(P.5-14)
5. 現在のサイトに必要なインストール後の作業をすべて実行します。
「インストール後のチェックリスト」(P.6-1) を参照してください。

既存のクラスタへの新しいノードの追加

図 5-5 既存のクラスタへの新しいノードの追加



209564

次のリストは、既存のクラスタに新しいノードを追加するために実行する必要がある手順を示しています。

1. 既存のクラスタに変更を加える前に、現時点のバックアップファイルがあることを確認します。
『*Disaster Recovery System Administration Guide*』を参照してください。
2. 現在のサイトに必要なインストール前の作業をすべて実行します。
「インストール前のチェックリスト」(P.4-10)を参照してください。
3. 新しいノードの追加をサポートできる適切な数のライセンスがあることを確認します。
「Cisco Unified Presence のライセンス要件」(P.3-2)を参照してください。
4. 新しいノードをインストールする前に、新しいノードをパブリック ノード上で必ず設定しておきます。
「クラスター トポロジ」(P.4-11)を参照してください。
5. クラスタ内のすべてのノードに対して、同一のソフトウェアバージョンをインストールする必要があります。正しいバージョンが DVD であることを確認してください。

6. 新しいノードの無人インストールおよび設定を行う場合、手順に従って、サブスクライバ ノードのインストールおよび設定用応答ファイルを使用します。
「[応答ファイルを使用した Cisco Unified Presence のインストールと設定](#)」(P.5-8) を参照してください。
手動でサブスクライバ ノードのインストールおよび設定を行う場合は、次の手順に従います。
 - a. 手順に従って、DVD からサーバへのソフトウェアのインストールを開始します。
「[基本インストールの開始](#)」(P.5-9) を参照してください。
 - b. 手順に従って、基本インストールを設定します。
「[基本インストールの設定](#)」(P.5-10) を参照してください。
 - c. 手順に従って、クラスタ内にサブスクライバ ノードを設定します。
「[サブスクライバ ノードの設定](#)」(P.5-14) を参照してください。
7. 現在のサイトに必要なインストール後の作業をすべて実行します。
「[インストール後のチェックリスト](#)」(P.6-1) を参照してください。

インストール ウィザードの操作

表 5-1 はインストール ウィザードの操作方法を示しています。

表 5-1 インストール ウィザードの操作

操作内容	使用するキー
次のフィールドへ移動する	Tab または→
前のフィールドへ移動する	Alt+Tab または←
オプションを選択する	Space バーまたは Enter
一覧を上下へスクロールする	↑または←
前のウィンドウへ移動する	[戻る (Back)] (使用可能な場合) を選択するには Space バーまたは Enter
ウィンドウに関するヘルプ情報を参照する	[ヘルプ (Help)] (使用可能な場合) を選択するには Space バーまたは Enter

Cisco Unified Presence のインストールと設定

- 「[メディアのチェック](#)」(P.5-8)
- 「[応答ファイルを使用した Cisco Unified Presence のインストールと設定](#)」(P.5-8)
- 「[基本インストールの開始](#)」(P.5-9)
- 「[基本インストールの設定](#)」(P.5-10)
- 「[パブリッシャ ノードの設定](#)」(P.5-12)
- 「[インストール後の導入ウィザードの実行](#)」(P.5-12)
- 「[サブスクライバ ノードの設定](#)」(P.5-14)
- 「[プレインストールされた Cisco Unified Presence Server の設定](#)」(P.5-16)

メディアのチェック

インストール ウィザードの開始時に、メディア チェックを実行するように要求されます。メディア チェックが完了すると、チェック結果が [メディア チェックの結果 (Media Check Result)] ウィンドウに表示されます。

メディア チェックに合格すると、インストールを続行できます。次に、システム インストーラがさまざまなハードウェア チェックを実行し、システムが Cisco Unified Presence に対して正しく設定されているか確認します。システム インストーラは、サポートされるハードウェア プラットフォームが存在するかどうかを確認します。サーバがハードウェア要件を完全には満たしていない場合、インストール プロセスは致命的なエラーで失敗します。このインストールの失敗が誤りであると思われる場合はエラーをキャプチャし、シスコのサポートに報告してください。Cisco Unified Presence Release 8.6 でサポートされるハードウェアの一覧については、『*Hardware and Software Compatibility Information for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

メディア チェックに失敗した場合、2 つの選択肢があります。このままインストールを続行するか (失敗する可能性があります)、あるいは Cisco.com から別のコピーをダウンロードするか、シスコシステムズから直接別のディスクを取得してからインストールをもう一度開始することができます。

応答ファイルを使用した Cisco Unified Presence のインストールと設定

Cisco Unified Presence の新規インストールに応答ファイルを使用できます。このオプションによって、Cisco Unified Presence のインストールおよび設定が無人で実行されます。

はじめる前に

- インストール準備のチェックリストを実行します。「[インストール前のチェックリスト](#)」(P.4-10)を参照してください。
- 応答ファイルを生成して、FAT32 ファイル システムの USB キーに保存します。「[Cisco Unified Presence の無人インストール](#)」(P.4-11)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** USB キーを USB ポートに挿入します。
 - ステップ 2** インストール DVD をトレイに挿入し、サーバを再起動して DVD から起動します。
 - ステップ 3** サーバのブート シーケンスの完了後、[はい (Yes)] を選択すると、メディア チェックが実行されます。
 - ステップ 4** [メディア チェックの結果 (Media Check Result)] で [パス (Pass)] と表示された場合は、[OK] を選択してインストールを続行します。合格しなかった場合は、新しいソフトウェア ディスクでインストールを後で再起動できます。
 - ステップ 5** [製品導入の選択 (Product Deployment Selection)] ウィンドウで [OK] を選択し、Cisco Unified Presence をインストールします。
次に、インストール プロセスは RAID 設定および BIOS 設定を確認します。インストール プロセス中にハードウェア設定を変更した場合、システムを再起動するようにプロンプトが表示されます。
 - ステップ 6** [インストールの続行 (Proceed with Install)] ウィンドウで [はい (Yes)] を選択すると、インストールが続行されます。

**注意**

インストールの続行に問題がないことを確認できるまでは、[はい (Yes)] を選択しないでください。[インストールの続行 (Proceed with Install)] ウィンドウで [はい (Yes)] を選択した場合、ハードドライブに存在するすべてのデータが上書きされ破棄されます。[インストールの続行 (Proceed with Install)] ウィンドウに、ハードドライブにある Cisco Unified Presence ソフトウェアのバージョン (存在する場合)、および DVD のバージョンが表示されます。

応答ファイルに指定された情報に基づいて、Cisco Unified Presence ソフトウェアのインストールと設定が行われます。

次の作業

- パブリッシュャ ノードの場合は、「インストール後の導入ウィザードの実行」(P.5-12) に進みます。
- サブスクライバ ノードの場合は、「インストール後のチェックリスト」(P.6-1) に進みます。

基本インストールの開始

この手順は Cisco Unified Presence ソフトウェアを手動でインストールして設定する際の最初の手順です。

はじめる前に

- 「インストール前のチェックリスト」(P.4-10) に説明のあるインストール準備の作業を完了します。
- 新しいサーバに Cisco Unified Presence がプレインストールされている場合は、その後の製品リリースでサーバを再イメージ化する場合を除いて、DVD からインストールする必要はありません。既存のインストール データの入力（「プレインストールされた Cisco Unified Presence Server の設定」(P.5-16)）に進んでください。

手順

-
- ステップ 1** インストール DVD をトレイに挿入し、サーバを再起動して DVD から起動します。
- ステップ 2** サーバのブート シーケンスの完了後、[はい (Yes)] を選択すると、メディア チェックが実行されます。
- ステップ 3** [メディア チェックの結果 (Media Check Result)] で [Pass] と表示された場合は、[OK] を選択してインストールを続行します。合格しなかった場合は、新しいソフトウェア ディスクでインストールを後に再起動できます。
- ステップ 4** [製品導入の選択 (Product Deployment Selection)] ウィンドウで [OK] を選択し、Cisco Unified Presence をインストールします。
- 次に、インストール プロセスは RAID 設定および BIOS 設定を確認します。インストール プロセス中にハードウェア設定を変更した場合、システムを再起動するようにプロンプトが表示されます。
- ステップ 5** [インストールの続行 (Proceed with Install)] ウィンドウで [はい (Yes)] を選択すると、インストールが続行されます。インストールを続行しない場合は [いいえ (No)] を選択します。

**注意**

インストールの続行に問題がないことを確認できるまでは、[はい (Yes)] を選択しないでください。[インストールの続行 (Proceed with Install)] ウィンドウで [はい (Yes)] を選択した場合、ハードドライブに存在するすべてのデータが上書きされ破棄されます。[インストールの続行 (Proceed with Install)] ウィンドウに、ハードドライブにある Cisco Unified Presence ソフトウェアのバージョン (存在する場合)、および DVD のバージョンが表示されます。

- ステップ 6** [プラットフォームのインストール (Platform Installation)] ウィンドウで、次のいずれかを選択します。
- [続行 (Proceed)] : ソフトウェアのインストールと設定をすぐに行います。
 - [スキップ (Skip)] : ソフトウェアのインストールはすぐに行いますが、設定は後で行います。システムが再起動され、設定を後で行います (「[プレインストールされた Cisco Unified Presence Server の設定](#)」(P.5-16) を参照)。
- ステップ 7** [パッチの適用 (Apply Patch)] ウィンドウで [いいえ (No)] を選択すると、新しいリリースにアップグレードせずに DVD 上のソフトウェアをインストールします。ソフトウェアを新しいリリースにアップグレードするオプションは現在サポートされていません。
- ステップ 8** [Basic Install] ウィンドウで [続行 (Continue)] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

ハードウェア チェック中に、インストール プロセスは現在のドライバに対するチェックを行います。「Drivers not found, do you want to install manually?」という警告が表示された場合は、[はい (Yes)] を選択してインストールを続行する必要があります。

次の作業

- 「[基本インストールの設定](#)」(P.5-10) または
- 「[プレインストールされた Cisco Unified Presence Server の設定](#)」(P.5-16)

基本インストールの設定

はじめる前に

- 「[基本インストールの開始](#)」(P.5-9) で説明したとおり、Cisco Unified Presence DVD をロードして基本インストールを開始します。
- Cisco Unified Presence の設定はインストール要件に固有で、一部のフィールドはオプションです。たとえば、固定 IP アドレス値と DNS を DHCP で設定できます。

手順

- ステップ 1** [タイムゾーンの設定 (Timezone Configuration)] ウィンドウで、サーバに該当するタイムゾーンを選択し、[OK] を選択します。
- ステップ 2** [自動ネゴシエーションの設定 (Auto Negotiation Configuration)] ウィンドウで [はい (Yes)] を選択すると Ethernet network interface card (NIC; イーサネット ネットワーク インターフェイス カード) の速度とデュプレックス設定が自動的に設定されます。



(注) 自動ネゴシエーションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

[いいえ (No)] を選択すると該当する NIC 速度とデュプレックス設定を手動で選択します。[OK] を選択して続行します。

ステップ 3 デフォルトの Maximum Transit Unit (MTU; 最大転送単位) を変更する必要がある場合は [はい (Yes)] を選択し、Cisco Unified Communications Manager に設定されている MTU と同じ値を入力して [OK] を選択します。



(注) Cisco Unified Communications Manager の MTU と異なる値を入力すると、インストールは失敗します。

ステップ 4 [DHCP の設定 (DHCP Configuration)] ウィンドウで、次のいずれかを選択します。

- [はい (Yes)] を選択すると、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP; ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル) を使用してステップ 7 に進みます。
- [いいえ (No)] を選択すると、サーバに固定 IP アドレスを設定します。

ステップ 5 [スタティック ネットワークの設定 (Static Network Configuration)] ウィンドウに、ご使用の固定 ネットワーク設定値を入力して [OK] を選択します。

ステップ 6 [DNS クライアントの設定 (DNS Client Configuration)] ウィンドウで、次のいずれかを選択します。

- DNS を使用している場合は [はい (Yes)] を選択して DNS クライアント情報を入力し、[OK] を選択します。
- DNS を使用していない場合は [いいえ (No)] を選択します。



(注) DNS を使用しない場合は、インストールの完了後、Cisco Unified Presence ノード名を解決可能な値に更新する必要があります。「[Cisco Unified Presence ノード名の解決可能な値への変更](#)」(P.6-4) を参照してください。

ステップ 7 管理者のログイン情報およびパスワード情報を入力します。

ステップ 8 [証明書情報 (Certificate Information)] ウィンドウで証明書署名要求情報 (組織、部門、場所、都道府県、国) を入力し、[OK] を選択して進みます。

ステップ 9 パブリッシャ ノードの場合、「[パブリッシャ ノードの設定](#)」(P.5-12) で説明したとおりにインストールを続行します。サブスクリバ ノードの場合、「[サブスクリバ ノードの設定](#)」(P.5-14) で説明したとおりにインストールを続行します。

次の作業

- パブリッシャ ノードの場合は、「[パブリッシャ ノードの設定](#)」(P.5-12) に進みます。
- サブスクリバ ノードの場合は、「[サブスクリバ ノードの設定](#)」(P.5-14) に進みます。

パブリッシャ ノードの設定

はじめる前に

- 基本インストールを開始します（「基本インストールの開始」(P.5-9) を参照）。
- 基本インストールを設定します（「基本インストールの設定」(P.5-10) を参照）。

-
- ステップ 1** 最初の [ノード設定 (Node Configuration)] ウィンドウで [はい (Yes)] を選択します。
- ステップ 2** [ネットワーク タイム プロトコル クライアントの設定 (Network Time Protocol Client Configuration)] ウィンドウで、Cisco Unified Communications Manager publisher パブリッシャ ノードの IP アドレス、NTP サーバ名、あるいは NTP サーバプール名を入力します。詳細については、「Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードのシステム時刻」(P.3-2) を参照してください。
- ステップ 3** [セキュリティ パスワード (Security Password)] ウィンドウでセキュリティ パスワードを入力して [OK] を選択します。
- ステップ 4** SMTP ホストを設定する場合は [はい (Yes)] を選択し、SMTP ロケーションを入力して [OK] を選択します。
- ステップ 5** [アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでアプリケーション ユーザ名とパスワードを入力して [OK] を選択します。
- ステップ 6** [プラットフォーム設定の確認 (Platform Configuration Confirmation)] ウィンドウで [OK] を選択し、ソフトウェアのインストールを続行します。[OK] を選択すると、プラットフォームの設定を変更できなくなります。

インストール処理が完了すると、管理者のアカウントとパスワードを使用して Cisco Unified Presence の管理 GUI にログインするようにプロンプトが表示されます。

トラブルシューティングのヒント

- セキュリティ パスワードは、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのパスワードと同一にする必要があります。Cisco Unified Presence の管理に初めてログインしたときに、セキュリティ パスワードを変更できます。
- 一部のオペレーティング システム機能を使用するには SMTP サーバの設定が必要です。SMTP サーバは、Cisco Unified Communications Operating System のインターフェイスまたは CLI を使用して、後で設定することもできます。

次の作業

「インストール後の導入ウィザードの実行」(P.5-12)

インストール後の導入ウィザードの実行



注意

インストール後の導入ウィザードは、Cisco Unified Presence の新規インストールの直後に必ず実行してください。また、Disaster Recovery System のデータをバックアップまたは復元する前に実行してください。Cisco Unified Presence をインストールして、インストール後の導入ウィザードの実行前に Disaster Recovery System のデータをバックアップまたは復元しようとする、操作に失敗します。

Cisco Unified Presence クラスタ内にはパブリッシャは 1 つだけ存在します。これは最初にインストールされるサーバです。パブリッシャ サーバを新規インストールした後に一度だけ、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの設定、および Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバの AXL 情報の設定を要求されます。

この情報を設定するため、Cisco Unified Presence の新規インストール後に初めて Cisco Unified Presence の管理ページにログインすると、インストール後の導入ウィザードが起動します。



(注)

インストール後の導入ウィザードが起動した場合は、初期インストールに成功しています。

はじめる前に

- インストール後の導入ウィザードは一度しか実行できません。次回、Cisco Unified Presence の管理ページにログインしたときは、アプリケーションが自動的にインストール後の設定が完了していることを検知し、デフォルトで Cisco Unified Presence の管理ウィンドウが表示されます。
- Cisco Unified Communications Manager の AXL 権限を持つアプリケーションユーザのユーザ ID とパスワードを取得します。
- DNS を使用していない場合は、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの IP アドレスを取得します。

手順

ステップ 1 パブリッシャ ノードで Cisco Unified Presence の管理ページにログインします。インストール後の導入ウィザードが自動的に表示されます。

ステップ 2 インストール後の導入ウィザードの最初のページで、[ホスト名 (Hostname)] フィールドに Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのホスト名を入力します。

ご使用のネットワークに DNS が用意されていない場合は、[IP アドレス (IP address)] フィールドに Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの IP アドレスを入力します。



(注)

ネットワークに DNS が存在しない場合は、ホスト名を IP アドレスに自動的に解決できないため、IP アドレスを入力する必要があります。DNS を使用してホスト名を IP アドレスに解決できる場合は、IP アドレスを空白にできます。アプリケーションは自動的に IP アドレスを検出します。

ステップ 3 インストール後の導入ウィザードの 2 番目のページで、関連する Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバに標準 AXL API アクセス ロールが割り当てられているアプリケーションユーザのユーザ ID とパスワードを入力します。



(注)

デフォルトでは、CCMAdministrator ユーザ ID に Standard AXL API Access 権限が割り当てられています。

ステップ 4 インストール後の導入ウィザードの 3 番目のページで、Cisco Unified Presence の初期インストール時に指定したセキュリティ パスワードの変更と確認を行います。[次へ (Next)] を選択します。



(注)

Cisco Unified Presence の後続サーバをインストールする際には、これらのサブスクリバサーバは新規セキュリティ パスワードを使用し、Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのインストール中に使用されたものは使用しません。

- ステップ 5** インストール後の導入ウィザードの 4 番目のページで、設定した情報を確認し、[確認 (Confirm)] を選択して先に進みます。エラーを修正するには、[戻る (Back)] を選択します。
- ステップ 6** インストール後の導入ウィザードの 5 番目のページで、Cisco Unified Presence の管理ページ内で次に表示するウィンドウを選択します。

トラブルシューティングのヒント

- エラーメッセージが表示された場合は、Cisco Unified Communications Manager で AXL が実行されているかどうか、およびユーザ ID とパスワードが正しいかどうかを確認してください。ブラウザを使用して、`http://<<CUCM Hostname>>/axl` と入力します。ユーザ ID とパスワードを入力するようにプロンプトが表示されます。入力した内容が正しいければ、Web ページに AXL が実行中で、要求の受信準備ができていたことが表示されます。
- インストール後のウィザードは一度しか実行できません。この初期設定後に Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのアドレスまたは AXL 情報を変更する場合は、Cisco Unified Presence の管理で、[システム (System)] > [CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)] の順に選択します。
- Cisco Unified Presence のサブスクリバノードは、パブリッシャ サーバの設定チェック後、パブリッシャ ノードから Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの情報を取得します。
- 製造中止となったハードウェアのインストールを実行すると、Cisco Unified Presence から警告が表示されます。Cisco Unified Presence は、製造中止となったハードウェアからのブリッジアップグレードをサポートします。ブリッジアップグレードにより、製造中止となったハードウェアでの Disaster Recovery System (DRS) バックアップができるようになります。バックアップ後に、サポートされるハードウェアで DRS バックアップを復元できます。ブリッジアップグレードの詳細については、『*Upgrade Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。DRS の詳細については、『*Disaster Recovery System Administration Guide*』を参照してください。

次の作業

[「インストール後のチェックリスト」\(P.6-1\)](#)

サブスクリバノードの設定

後続の Cisco Unified Presence サーバをインストールするときは、後続サーバを Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバと関連付けて、後続サーバのホスト名と IP アドレスを設定する必要があります。新しいサーバにはそれぞれ、Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバへのネットワーク アクセスも必要です。

追加の Cisco Unified Presence サーバをインストールする前に、ネットワーク接続性診断ツールを使用してネットワーク接続性の問題を検査するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。システムが Cisco Unified Presence でパブリッシャ サーバへのネットワーク アクセスを確認できない場合は、ログを通じて異常点が報告されます。続行する前にサーバの問題を調査する必要がある場合は、設定の途中でプロセスを一時停止できます。

はじめる前に

- Cisco Unified Presence でのパブリッシャ サーバの設定が完了し、インストール後の導入ウィザードが正常に実行されたことを確認します。後続サーバをインストールするときは、最初のノードとしてインストールした元のパブリッシャ サーバを考慮してください。
- 後続サーバをインストールする前に、パブリッシャ ノードのトポロジ ビューにサブスクリバノードを追加します。後続サーバをインストールするまでは、後続サーバをサブクラスタに割り当てないでください。



(注) Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバでサブスクリバ ノードを設定するには、Cisco Unified Presence の管理ページで、[クラスタ (Cluster)] > [トポロジ (Topology)] の順に選択します。[トポロジ (Topology)] ウィンドウでは、一度に複数のサブスクリバ ノードを追加できます。たとえば、パブリッシャ サーバを含めて 6 台のサーバが存在するマルチノード クラスタをインストールする場合は、Cisco Unified Presence システム トポロジに、5 つのサブスクリバ ノードを同時に追加できます。

- 基本インストールを開始します (「基本インストールの開始」(P.5-9) を参照)。
- 基本インストールを設定します (「基本インストールの設定」(P.5-10) を参照)。

- ステップ 1** 最初の [ノード設定 (Node Configuration)] ウィンドウで [いいえ (No)] を選択します。
- ステップ 2** 警告を確認し、[OK] を選択して続行します。
- ステップ 3** ネットワーク接続性テストの検証が完了してからインストールを続行することを確認するには [いいえ (No)] を選択します。
- ステップ 4** パブリッシャ サーバへの正常なネットワーク接続が確認できた場合は、[続行 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 5** 最初の [ノードアクセスの設定 (Node Access Configuration)] ウィンドウに次の情報を入力し、[OK] を選択して先に進みます。
- Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのホスト名
 - Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバの IP アドレス
 - Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのセキュリティ パスワード
- ステップ 6** SMTP ホストを設定する場合は、[SMTP ホストの設定 (SMTP Host Configuration)] ウィンドウで [はい (Yes)] を選択し、SMTP ロケーションを入力します。
- ステップ 7** [プラットフォーム設定の確認 (Platform Configuration Confirmation)] ウィンドウで [OK] を選択すると、ソフトウェアのインストールを続行します。設定を変更するには [戻る (Back)] を選択します。
- インストール処理が完了すると、管理者のアカウントとパスワードを使用して Cisco Unified Presence の管理ページにログインするようにプロンプトが表示されます。

トラブルシューティングのヒント

- Cisco Unified Presence に設定するセキュリティ パスワードは、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバで使用されるパスワードと同一にする必要があります。
- 後続の Cisco Unified Presence サーバをインストールする前にサブクラスタに割り当てた場合は、リモート クラスタのユーザがプレゼンス情報を受信できません。サーバがインストールされるまで、プレゼンス機能は停止します。
- 一部のオペレーティング システム機能を使用するには SMTP サーバの設定が必要です。SMTP サーバは、Cisco Unified Communications Operating System のインターフェイスまたは CLI を使用して、後で設定することもできます。
- Cisco Unified Presence インストールで複数のサーバを導入する場合は、Cisco Unified Presence でマルチノード機能を使用する必要があるため、ハードウェアにマルチノード機能との互換性があるかどうか確認してください。Cisco Unified Presence の新規インストールまたはアップグレードのどちらでも、この作業が必要です。特定のマルチノードの導入戦略、および高可用性を実現するための推奨事項については、「マルチノードの新規インストールの実行」(P.5-16) を参照してください。

次の作業

「インストール後のチェックリスト」(P.6-1)

プレインストールされた Cisco Unified Presence Server の設定

はじめる前に

Cisco Unified Presence の基本インストールを開始し、次の条件に応じて処理を続行します。

- Cisco Unified Presence ソフトウェアのインストールを選択したが、設定は後で行うため、プラットフォームのインストール ウィザードのウィンドウで [スキップ (Skip)] を選択した。
- サーバに Cisco Unified Presence がプレインストールされている。

手順

-
- ステップ 1** システムの再起動後、[既存のインストール設定 (Pre-existing Installation Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- Answer File Generator で生成された既存の設定情報が USB キーに格納されている場合は、ここで USB キーを挿入して、[続行 (Continue)] を選択します。インストール プロセス中に、設定情報がインストール ウィザードに読み取られます。
- ステップ 2** プラットフォームのインストール ウィザードで [続行 (Proceed)] を選択します。
- ステップ 3** [パッチの適用 (Apply Patch)] ウィンドウで [いいえ (No)] を選択すると、新しいリリースにアップグレードせずに DVD 上のソフトウェアをインストールします。ソフトウェアを新しいリリースにアップグレードするオプションは現在サポートされていません。
- ステップ 4** [基本インストール (Basic Install)] ウィンドウで [続行 (Continue)] を選択します。
-

次の作業

- 応答ファイルを使用するパブリッシャ ノードの場合は、「インストール後の導入ウィザードの実行」(P.5-12) に進みます。
- 応答ファイルを使用するサブスライバ ノードで、ソフトウェアのインストールと設定が完了した場合は、ここでインストール後のチェックリストを完了させる必要があります。「インストール後のチェックリスト」(P.6-1) を参照してください。
- 応答ファイルを使用しなかった場合は、「基本インストールの設定」(P.5-10) に進みます。

マルチノードの新規インストールの実行

マルチノードの Cisco Unified Presence 導入を設定している場合は、この一連の作業を実行することをお勧めします。Cisco Unified Presence マルチノード機能を設定し、サブクラスタ、ノード、ユーザを Cisco Unified Presence の管理ページのクラスタ トポロジで管理します。クラスタ トポロジにアクセスするには、Cisco Unified Presence の管理ページで [システム (System)] > [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] の順に選択します。

サブスライバ ノードは、インストール前、特にこれらのノードに Cisco Unified Presence ソフトウェアをインストールする前に、トポロジに作成できます。ただし、これらのサブスライバ ノードに Cisco Unified Presence ソフトウェアをインストールする前に、サブスライバ ノードをサブクラスタに割り当てることはできません。

はじめる前に

- 設定するマルチノード導入モデルのタイプを決定します。
- Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードでの Cisco Unified Presence の導入に対応するマルチノード設定を実行します。

制限事項

ご使用のハードウェアが、マルチノードハードウェアの推奨事項を満たしている必要があります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Presence パブリッシャ ノード (Cisco Unified Presence クラスタの第 1 サーバ) をインストールします。
 - ステップ 2** (パブリッシャ ノードで) クラスタ トポロジでクラスタ内のすべてのサブクラスタとノードを作成します。
 - ステップ 3** (パブリッシャ ノードで) クラスタ トポロジでクラスタ内のサブスライバ ノードをそれぞれパブリッシャ ノードと関連付けます。
 - ステップ 4** クラスタ内の各サブスライバ ノードのインストールと設定を行います。
 - ステップ 5** (パブリッシャ ノードで) クラスタ トポロジで、必要に応じて、これらのノードをサブクラスタ配置に割り当てます。



(注)

ノードをサブスライバに割り当てまたは移動する前に、次の事項について確認してください。

- [システム トラブルシュータ (System troubleshooter)] ページで Cisco UP Replication Watcher サービスがすべてのノードで実行されているかどうか確認します。
- (サブスライバ ノードでの) Cisco Unified Serviceability において、[ネットワーク サービス (Network services)] 画面ですべての Cisco Unified Presence サービスが実行されているかどうか確認します。

-
- ステップ 6** Cisco Unified Presence Release 8.6 をインストールする場合は、必要に応じてサブクラスタ内のハイアベイラビリティを起動します。詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。
 - ステップ 7** Sync Agent サービスをパブリッシャ ノード上でオンにして、Cisco Unified Communications Manager ユーザおよびデバイス設定情報を同期します。
 - ステップ 8** 同期化が完了すると、Cisco UP Presence Engine および Cisco IP SIP プロキシ サービスをオンにし、Cisco UP XCP ルータ サービスがオンになっていることを確認します。
 - ステップ 9** 導入環境の機能に該当する XCP サービスをオンにします。オンにする必要のある XCP サービスを確認するには、これらの機能のマニュアルを参照してください。

トラブルシューティング項目

- Cisco UP XCP ルータは、Cisco Unified Presence (SIP ベースのクライアント メッセージングと XMPP ベースのクライアント メッセージングの両方) で正しく機能するように、すべてのアベイラビリティ サービスで実行される必要があります。
- サブスライバ Cisco Unified Presence ノードのインストールを実行する前に、そのサブスライバ ノードをパブリッシャ ノードのクラスタ トポロジ ビューに関連付ける必要があります。

- サブスクライバ ノードは、インストールするまでサブクラスタに割り当てないでください。サブスクライバ ノードをインストールする前に、サブスクライバの Cisco Unified Presence ノードをサブクラスタに割り当てると、リモート クラスタのユーザがアベイラビリティ情報を受け取ることができなくなります。サブスクライバ ノードをインストールするまで、アベイラビリティ停止が発生します。
- Cisco Unified Presence サービスを開始する前にノードを割り当てると、ユーザが Cisco Unified Personal Communicator にログインできなくなる可能性があります。この状況が発生した場合は、Cisco UP Client Profile Agent サービスを再起動してください。Cisco Unified Presence サービスを再起動するには、[Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] > [ツール (Tools)] > [コントロール センター - ネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] の順に選択します。
- サブクラスタ内のノードを移動または割り当て解除する前に、そのサブクラスタ内のハイ アベイラビリティをオフにする必要があります。
- IDS レプリケーションが正しく行われていないと、Cisco UP Replication Watcher サービスによって、サブスクライバ ノードでの機能のサービス開始が遅延されます。

次の作業

(パブリッシャ ノードで) リモート Cisco Unified Presence クラスタとのクラスタ間ピア関係を設定します。詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。



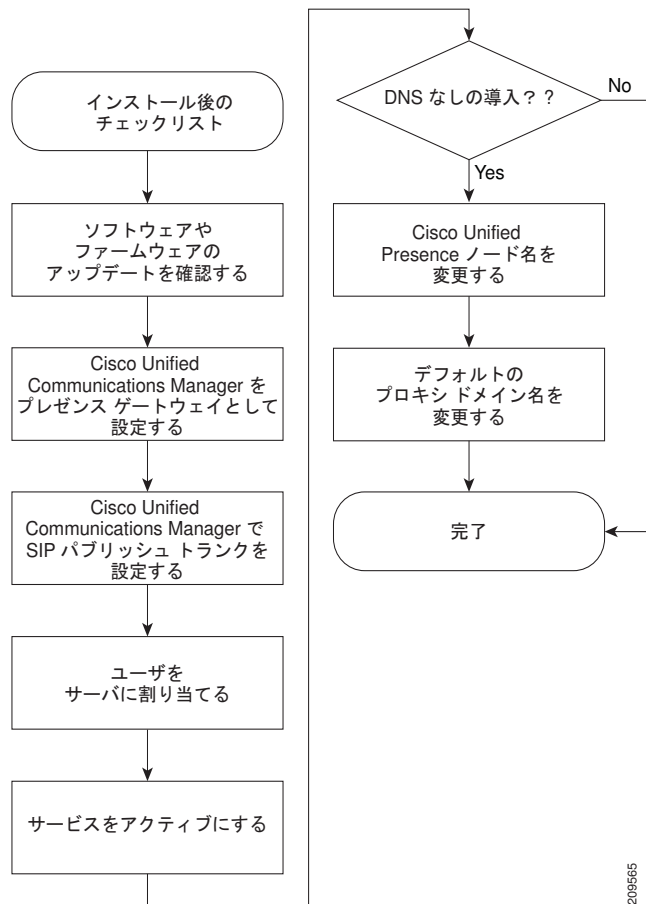
CHAPTER 6

インストール後のタスク

- 「インストール後のチェックリスト」 (P.6-1)
- 「Cisco Unified Presence ライセンス ファイルの取得とアップロード」 (P.6-5)

インストール後のチェックリスト

図 6-1 インストール後のフローチャート



209565

Cisco Unified Presence クラスタにインストールするサーバごとに、次の作業を順番に実行します。

1. Cisco.com で Cisco Unified Presence にソフトウェアのアップデートやファームウェアのアップデートがないか確認します。
「ソフトウェアの更新およびファームウェアのアップデートの確認」(P.6-2) を参照してください。
2. Cisco Unified Communications Manager をプレゼンス ゲートウェイとして設定します。
「プレゼンス ゲートウェイとしての Cisco Unified Communications Manager の設定」(P.6-3) を参照してください。
3. Cisco Unified Communications Manager で SIP パブリッシュ トランクを設定します。
「Cisco Unified Communications Manager での SIP トランクの設定」(P.6-3) を参照してください。
4. ユーザをサーバに割り当てます。
「サーバへのユーザの割り当て」(P.6-4) を参照してください。
5. サービスをアクティブにします。
「サービスのアクティブ化」(P.6-4) を参照してください。
6. DNS なしの導入の場合、Cisco Unified Presence ノード名を変更します。
「Cisco Unified Presence ノード名の解決可能な値への変更」(P.6-4) を参照してください。
7. DNS なしの導入の場合、デフォルトのプロキシ ドメイン名を変更します。
「デフォルトのプロキシ ドメイン名の変更」(P.6-5) を参照してください。



注意

ただし、後続の Cisco Unified Presence サーバをインストールする前に、Cisco Unified Presence パブリッシュ サーバに対してインストール後のチェックリストを実行したことを確認してください。

はじめる前に

Cisco Unified Presence パブリッシュ サーバで、インストール後の導入ウィザードを実行し、Cisco Unified Communications Manager パブリッシュのアドレスおよび AXL パラメータを設定します。「インストール後の導入ウィザードの実行」(P.5-12) を参照してください。

ソフトウェアの更新およびファームウェアのアップデートの確認

Cisco Unified Presence のインストール後は、シスコからソフトウェアやファームウェアのアップデート、重要なパッチやサービスのアップデートがリリースされていないか確認してください。

ファームウェア

致命的な障害が発生するのを防ぐため、最新の包括的なファームウェアのアップデート CD (FWUCD) をできるだけ早く適用してください。

手順

- ステップ 1 www.cisco.com を参照します。
- ステップ 2 [サポート (Support)] > [ソフトウェアのダウンロード (Download Software)] の順に選択します。
- ステップ 3 [製品 (Products)] > [Voice and Unified Communications] > [Communications Infrastructure] > [Voice Servers] > [Cisco 7800 Series Media Servers (または Cisco UCS B-Series Blade Servers)] > (ご使用のサーバ モデル) に移動します。

- ステップ 4** ファームウェアのアップグレードがある場合、ダウンロードの指示に従い、最新のファームウェアのアップグレードを適用します。

ソフトウェア

Service Updates (SU; サービス アップデート) には、当初のリリースの時点では適用されていなかった修正が含まれています。多くの場合、動作の改善につながるセキュリティ修正、ファームウェア アップデート、ソフトウェア修正なども含まれています。

ソフトウェア アップグレード、サービス アップデート、重要なパッチがないかどうか、www.Cisco.com で確認してください。

手順

- ステップ 1** www.cisco.com を参照します。
- ステップ 2** [サポート (Support)] > [ソフトウェアのダウンロード (Download Software)] の順に選択します。
- ステップ 3** [製品 (Products)] > [Voice and Unified Communications] > [Unified Communications アプリケーション (Unified Communications Applications)] > [Cisco Unified Presence] > [Cisco Unified Presence のバージョン (Cisco Unified Presence Version)] <ご使用の導入のバージョン> に移動します。
- ステップ 4** ソフトウェア アップグレードがある場合は、ソフトウェアのダウンロード指示に従ってください。

次の作業

[「プレゼンス ゲートウェイとしての Cisco Unified Communications Manager の設定」 \(P.6-3\)](#)

プレゼンス ゲートウェイとしての Cisco Unified Communications Manager の設定

Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence との間のプレゼンス情報交換を処理する SIP 接続を有効にするには、Cisco Unified Presence で Cisco Unified Communications Manager をプレゼンス ゲートウェイとして設定する必要があります。

Cisco Unified Presence でプレゼンス ゲートウェイを設定する方法の詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。



(注) Cisco Unified Presence クラスタにインストールするサーバごとに、この作業を実行します。

次の作業

[「Cisco Unified Communications Manager での SIP トランクの設定」 \(P.6-3\)](#)

Cisco Unified Communications Manager での SIP トランクの設定

Cisco Unified Communications Manager をプレゼンス ゲートウェイとして設定したら、Cisco Unified Communications Manager に SIP PUBLISH トランクを設定する必要があります。詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager に SIP PUBLISH トランクを設定した場合、Cisco Unified Presence でも SIP PUBLISH を有効にする必要があります。詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

次の作業

「サーバへのユーザの割り当て」(P.6-4)

サーバへのユーザの割り当て

ユーザの割り当ては、Cisco Unified Presence の管理ページのサービス パラメータとして自動的に有効になります。クラスタ トポロジでのユーザの自動および手動の割り当ての詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

次の作業

「サービスのアクティブ化」(P.6-4)

サービスのアクティブ化

次のサービスをアクティブにする必要があります。

- Cisco UP SIP Proxy
- Cisco UP Presence Engine
- Cisco UP Sync Agent
- Cisco UP XCP Connection Manager
- Cisco UP XCP Authentication Manager

Cisco Unified Serviceability で [ツール (Tools)] > [サービスの起動 (Service Activation)] の順に選択します。



(注) Cisco Unified Presence クラスタにインストールするサーバごとに、この作業を実行します。

これらのサービスをオンにしたら、Cisco Unified Presence が Cisco UP XCP Router サービスでオンになっているか確認する必要があります。Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - ネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] の順に選択します。



(注) Cisco Unified Presence クラスタにインストールするサーバごとに、この作業を実行します。

トラブルシューティングのヒント

Cisco Unified Presence サーバを使用する前に、Cisco Unified Presence Sync Agent がアクティブになるまで待つ必要があります。

Cisco Unified Presence ノード名の解決可能な値への変更



(注) この項は、DNS を使用しない導入にのみ適用されます。

インストール時に DHCP を使用しない選択をした場合は、Cisco Unified Presence サーバのホスト名と IP アドレスを入力する必要があります。ホスト名は、ヌル、localhost、IP アドレスのいずれにもできません。Cisco Unified Presence ノード名の値は、インストール時に入力したホスト名となり、解決可能な値になっている必要があります。導入環境で DNS を使用していない場合は、Cisco Unified Presence ノード名を解決できません。この状態を解消するには、インストールの完了後に Cisco Unified Presence ノード名を解決可能な値に変更する必要があります。

Cisco Unified Presence ノード名の変更方法の詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

デフォルトのプロキシ ドメイン名の変更



(注)

この項は、DNS を使用しない導入にのみ適用されます。

ご使用の Cisco Unified Presence 導入が DNS を使用しない場合は、インストール時にプロキシ ドメイン名が DOMAIN.NOT.SET に設定されます。インストールの完了後にこの値をエンタープライズ ドメイン値に変更することを推奨します。

ドメイン名を変更する前に、クラスタ内のすべてのノードについて、次のサービスを停止する必要があります。

- Cisco UP Presence Engine : [Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] > [ツール (Tools)] > [コントロール センター - フィーチャ サービス (Control Center - Feature Services)] の順に選択します。
- Cisco UP Proxy : [Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] > [ツール (Tools)] > [コントロール センター - フィーチャ サービス (Control Center - Feature Services)] の順に選択します。
- Cisco UP XCP Router : [Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] > [ツール (Tools)] > [コントロール センター - ネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] の順に選択します。

デフォルトのプロキシ ドメイン名を変更する方法の詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

デフォルトのドメイン名の変更後は、Cisco UP Presence Engine、Cisco UP Proxy、Cisco UP XCP Router の各サービスを再起動します。

Cisco Unified Presence ライセンス ファイルの取得とアップロード

Cisco Unified Presence の新規インストール直後に、システムはデフォルトで 90 日間の評価モードになります。これは評価用の試用期間です。この期間中は次の操作が可能です。

- 組織に Cisco Unified Presence サーバのライセンスがなくても、このサーバを実行できる
- この組織内のユーザで、Cisco Unified Communications Manager にすでに設定されているユーザは、Cisco Unified Presence にアクセスが可能で、Cisco Unified Personal Communicator を必要なユーザライセンス (DLU) がなくても使用できるように設定できる

評価用の試用期間の詳細については、「[ライセンス モード](#)」(P.3-2) を参照してください。

試用期間が終了する前、または終了後に Cisco Unified Presence を実稼動モードに移行するには、正しいライセンス ファイルを取得して、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence にアップロードする必要があります。

- 「サーバおよびユーザ ライセンス ファイルの取得」 (P.6-6)
- 「Cisco Unified Communications Manager へのユーザ ライセンスのアップロード」 (P.6-7)
- 「Cisco Unified Communications Manager でのライセンス機能の割り当て」 (P.6-7)
- 「Cisco Unified Presence へのサーバ ライセンス ファイルのアップロード」 (P.6-8)
- 「Cisco Unified Presence のライセンス情報の表示」 (P.6-9)

サーバおよびユーザ ライセンス ファイルの取得

シスコ ソフトウェアの発注時に、シスコから Product Authorization Key (PAK; 製品認証キー) が提供されます。PAK は、ライセンス ファイル用のソフトウェア アクティベーション キーを提供します。

はじめる前に

- サーバが物理サーバの場合は、Cisco Unified Presence をホストするマシンの MAC アドレスを確認します。サーバが仮想サーバの場合は、[Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] で [表示 (Show)] > [ネットワーク (Network)] の順に選択し、サーバのライセンス MAC 値を確認します。
- 有効なメール アドレスを確認します。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページ ([システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス ユニット計算 (License Unit Calculator)]) でライセンス ユニット計算を使用して、必要なデバイス ライセンスの数を特定します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Presence ソフトウェアに付属の PAK を、<http://www.cisco.com/go/license> の License Registration Web ツールに入力します。

ステップ 2 システム プロンプトに従い、次の情報を入力します。

- ライセンスが必要なサーバの MAC アドレスまたはライセンス MAC 値
- 有効なメール アドレス
- ライセンスが必要なサーバとデバイスの数
- サーバタイプ (物理サーバまたは VMware)
- インストール タイプ (新規インストールまたはアップグレード)

指定したメール アドレスに、サーバおよびユーザ ライセンス ファイルが送信されます。

次の作業

「Cisco Unified Communications Manager へのユーザ ライセンスのアップロード」 (P.6-7)

Cisco Unified Communications Manager へのユーザ ライセンスのアップロード

次のライセンスをアップロードする手順を説明します。

- Cisco Unified Presence 機能のユーザ ライセンス
- Cisco Unified Personal Communicator のソフトウェアおよびユーザ ライセンス

はじめる前に

ユーザ ライセンス ファイルを取得します。

制約事項

ユーザ ライセンス ファイルには、必ず *.lic* という接尾辞が付きます。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] > [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス ファイルのアップロード (License File Upload)] を選択します。
 - ステップ 2** [ライセンス ファイルのアップロード (Upload License File)] を選択します。
 - ステップ 3** ローカル コンピュータ上でライセンス ファイルを検索します。
 - ステップ 4** [アップロード (Upload)] を選択します。
 - ステップ 5** Cisco Unified Communications Manager サービスを再起動します。
-

トラブルシューティングのヒント

ライセンス ユニット レポートを実行して、ライセンス ファイルが正しくアップロードされていることを確認します。[Cisco Unified Communications Manager の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] > [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス ユニット レポート (License Unit Report)] を選択します。

次の作業

[「Cisco Unified Communications Manager でのライセンス機能の割り当て」 \(P.6-7\)](#)

Cisco Unified Communications Manager でのライセンス機能の割り当て

この手順を使用して、Cisco Unified Presence および Cisco Unified Personal Communicator 機能をユーザに割り当てます。



(注)

ユーザに割り当てた機能ごとに、1 つの Cisco Unified Communications Manager DLU が消費されます。

Bulk Administration Tool (BAT; 一括管理ツール) を使用してライセンスを割り当てることもできます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[一括管理 (Bulk Administration)] > [CUP] > [CUP/CUPC ユーザの更新 (Update CUP/CUPC Users Administration)] の順に選択します。

はじめる前に

ライセンス ファイルを Cisco Unified Communications Manager にアップロードします。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] > [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [機能割り当て (Capabilities Assignment)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] を選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
- a. 1 ユーザに機能を割り当てるには、ユーザ リンクを選択して [機能割り当ての設定 (Capabilities Assignment Configuration)] ウィンドウを表示します。
 - b. 複数のユーザに機能を割り当てるには、必要に応じてユーザをチェックして、[一括割り当て (Bulk Assignment)] を選択します。
- ステップ 4** [CUP を有効にする (Enable CUP)] をオンにして、Cisco Unified Presence 機能を有効にします。
- ステップ 5** [CUPC (Cisco Unified Personal Communicator) を有効にする (Enable CUPC)] をオンにして、Cisco Unified Personal Communicator 機能を有効にします。
- ステップ 6** [保存 (Save)] を選択します。
-

次の作業

[「Cisco Unified Presence へのサーバライセンス ファイルのアップロード」 \(P.6-8\)](#)

Cisco Unified Presence へのサーバライセンス ファイルのアップロード

次の手順に従って、サーバライセンス ファイル、またはソフトウェア アップグレードの場合はソフトウェア バージョンのライセンスを Cisco Unified Presence にアップロードします。



- (注)
- Cisco Unified Presence クラスタのパブリッシャ ノードに、Cisco Unified Presence サーバライセンス ファイルのみアップロードします。ライセンス ファイルには、クラスタ内でお客様がライセンスを持つ Cisco Unified Presence Server の数が記載されています。
 - 物理サーバに対して発行されたライセンスは、物理サーバにだけアップロードできます。同様に、VMware ライセンス ファイルは VMware サーバにだけアップロードできます。
-

はじめる前に

- [「Cisco Unified Presence のライセンス要件」 \(P.3-2\)](#) を確認してください。
- Cisco Unified Presence ユーザ ライセンスを Cisco Unified Communications Manager にアップロードします。[「Cisco Unified Communications Manager へのユーザ ライセンスのアップロード」 \(P.6-7\)](#) を参照してください。

- Cisco Unified Presence 機能をユーザに割り当てます。「Cisco Unified Communications Manager でのライセンス機能の割り当て」(P.6-7) を参照してください。

制約事項

ライセンス ファイルには、必ず *.lic* という接尾辞が付きます。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] > [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス ファイルのアップロード (License File Upload)] を選択します。
- ステップ 2** [ライセンス ファイルのアップロード (Upload License File)] を選択します。
- ステップ 3** ローカル コンピュータ上でファイルを検索します。
- ステップ 4** [アップロード (Upload)] を選択します。
- ステップ 5** Cisco UP Sync Agent サービスを再起動します。

トラブルシューティングのヒント

- ライセンス ファイルが指定したバージョンが、クラスタ内で実行されている Cisco Unified Presence のバージョン以上である場合に限り、Cisco Unified Presence はライセンス ファイルをアップロードします。バージョンチェックに失敗した場合は Cisco Unified Presence でアラームが生成されます。正しいバージョンのライセンス ファイルを新たに取得する必要があります。バージョンチェックは、メジャー リリースにのみ基づいて行われます。
- ライセンス ファイルが正しくアップロードされていることを確認するには、ライセンス ファイルが [ライセンス ファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウの既存のライセンス メニューにリストされているかどうか確認します。既存のライセンス ファイル メニューでライセンス ファイルを選択し、[ファイルの表示 (View File)] を選択します。

Cisco Unified Presence のライセンス情報の表示

Cisco Unified Presence の管理ページでは、現在のライセンス情報を表示できます。[ライセンス ユニット レポート (License Unit Report)] ウィンドウに、評価モードの残りの有効日数が表示されます。クラスタのライセンスを保有しているサーバの数と、残りのライセンス数も表示されます。ライセンス ユニット レポートを表示するには、Cisco Unified Presence の管理ページで [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス ユニット レポート (License Unit Report)] の順に選択します。

ライセンスを持ち、Cisco Unified Communications Manager から同期化されている Cisco Unified Presence ユーザと Cisco Unified Personal Communicator ユーザの数も表示できます。状況ウィンドウには次の情報が表示されます。

- ライセンスを持ち、Cisco Unified Communications Manager データベースから同期化されている Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザの数。
- デバイスのユーザ ID とプライマリ内線番号、およびユーザに関連付けられている連絡先の数。
- Cisco Unified Personal Communicator を使用するためのライセンスを持つユーザ。

この情報を表示するには、Cisco Unified Presence の管理ページで [診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。



CHAPTER 7

トラブルシューティング

Cisco Unified Presence パブリッシャのハードウェア障害

Cisco Unified Presence パブリッシャのハードウェアが故障した場合は、同じホスト名、IP アドレス、およびソフトウェア バージョンで新しいマシンに Cisco Unified Presence を再インストールする必要があります。Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Presence サーバの物理サーバの MAC アドレスの変化、または Cisco Unified Presence サーバの VMware のライセンス MAC 値の変化を検出します。物理サーバの新しい MAC アドレス、または VMware の新しいライセンス MAC の有効なライセンス ファイルを Cisco Unified Presence にアップロードするまでには、30 日間の猶予期間があります。これには、ライセンスの「再ホスト」を要求する電子メールを licensing@cisco.com に送信します。

新しいライセンス ファイルをアップロード後は、次の CLI コマンドを実行し、ライセンス マネージャを再起動して猶予期間を停止する必要があります。

```
file delete license <invalid-license-filename>
```



(注)

CLI コマンド `file delete license` は、パブリッシャの再ホストによって無効となったライセンス ファイルの削除にのみ使用できます。まだ有効なライセンス ファイルの手動削除には、このコマンドを使用しないでください。

移行先の新しいサーバの MAC アドレスまたはライセンス MAC 値を含める必要があります。サーバの MAC アドレスまたはライセンス MAC 値を取得するには、Cisco Unified Operating System の管理で [表示 (Show)] > [ネットワーク (Network)] を選択します。30 日間の猶予期間内に有効なサーバライセンスを取得してアップロードしなかった場合は、Cisco Unified Presence の機能にアクセスできなくなり、Cisco Unified Presence は Cisco UP Presence Engine および Cisco UP SIP Proxy サービスをシャットダウンします。



CHAPTER 8

参照先

RAID および BIOS 設定

ソフトウェアのインストール中に、システム インストーラは新しいオペレーティング システムおよび Cisco Unified Presence アプリケーション用に、システム BIOS および RAID を設定します。

インストール中に設定される BIOS 設定および RAID 設定については、次の表を参照してください。インストール中にハードウェア設定プロセスが失敗した場合、IBM サーバおよび HP サーバにあるブート時ユーティリティを使用して、表 8-1 および表 8-2 のように、RAID 設定および BIOS 設定を手動で行います。

表 8-1 HP サーバおよび IBM サーバの BIOS 設定

HP サーバ	IBM サーバ
OS Selection : Linux (新しいモデルには適用されません)	OS Selection : 適用されません
Boot order : CD、C:、Floppy	Boot order : CD、C:、Floppy
Post F1 prompt : Delayed	Post F1 prompt : Delayed
Hyperthreading : Enabled	Hyperthreading : Enabled

表 8-2 RAID 設定

Cisco MCS 7825 (HP および IBM)	Cisco MCS 7835 (HP および IBM)	Cisco MCS 7845 (HP および IBM)
RAID は適用されません	論理ドライブ : 1	論理ドライブ : 2
RAID は適用されません	RAID タイプ : 1 (1+0)	RAID タイプ : 1 (1+0)
(注) Cisco 7825H1 および Cisco 7825I1 では、SATA RAID が有効、RAID タイプが 1 (1+0)、論理ドライブが 1 です。		

